

## 子供をおこらせないで

京都信愛教会 加藤郁生



父たる者よ、子供をおこらせ  
ないで、主の薫陶と訓戒によっ  
て、彼らを育てなさい。

エペソ 6・4

父たる者よ、子供をいらだたせてはいけない。  
心がいいけるかも知れないから。

コロサイ 3・21

創世記に、有名なイサクの燔祭の箇所があり  
ます。父親のアブラハムが息子に手をかけるこ  
う非常に緊張した場面であると同時に、息子  
イサクの方は父のなすがままに、素直に従って  
いる印象を受けます。もちろん父親の威厳をもつ  
てなされた行為ですから、息子はそれに従った  
のでしょう。けれども、それにしても父と息子  
との信頼関係をうかがわせる光景のように思え  
ます。聖書は、旧約から親と子の関係というこ  
とに関心をもって記されました。

今、教会では信仰の継承と言つことが強く言  
われます。いずれの教会も、次の世代を担って  
いく上で中心的な働きを期待されるのが、牧師  
や信徒の子どもたちです。彼らが信仰者として

一人立ちし、教会につながるように育てて行く  
のがわたしたちの務めです。

その際に大切なことは、何よりもまず親が子  
どもと良好な関係を保つということではないで  
しょうか。聖書では、そのことを「子供をおこ  
らせないで」「子供をいらだたせてはいけない」  
といった表現をもって教えているように思いま  
す。わたしたちが、子どもをしつかりと愛し、  
子どもに注意と関心を払い、子どもの人格をリ  
スペクトするならば、子どもは親を慕い、親が  
大切にしている信仰に対して心を開くのです。

以前聞いた話ですが、あるクリスチャンの両  
親が、一生懸命信仰生活に励み、子どもも熱心  
に教会に連れて行きました。しかし子どもは教  
会から離れてしまいました。「これほど熱心に  
したのに何故？」というのが両親の間ですが、  
その前にまず、「自分と子どもたちの関係はど  
うだったか？」を問うことが大事かもしれませ  
ん。子どもを無視した熱心さが子どもたちの心を閉  
ざしてしまつこともあるからです。

人の心は花のようです。手間暇かけて育てて  
いかなければなりません。おろん、こうしたか  
らこうなるという公式はありません。親の祈り  
と愛情こそが子どもたちの信仰の成長に不可欠  
なのです。

# 牧羊者

## 目次

巻頭言	1
目次	2
カリキュラム	3
特集 「水営路教会の教会学校」	4
キリストの教え《1／1／1／22》	15
旧約聖書④ 「ヤコブ・ヨハネ」《1／29／2／19》	39
キリストの十字架への道《2／26／3／25》	63
牧羊ひろば（東播磨中央教会、浜松真愛教会）	93
おわりに	98

### 〔凡例〕

- 1、原語について…ギリシャ語は〔ギ〕、ヘブル語は〔ヘ〕、アラム語は〔ア〕で表記しています。
- 2、礼拝メッセージ例の最後の「さんび」の略記について  
「ホーリネス・」 「ホ・」 ……日本ホーリネス教会  
「インマヌエル・」 「イン・」 ……インマヌエル教会学校部  
「日キ・」 ……日本キリスト教団出版局

# キリストの救いを知って

ヨハネ1・29

## ●キリストの教え

行事	テーマ	聖書	暗唱聖句
1月1日 新年礼拝	無くて ならぬもの	ルカ10・38～42	同上42
8日	切なる祈り	ルカ11・1～13	同上9
15日	愚かな生き方	ルカ12・13～21	同上15
22日	迷える羊を 求めて	ルカ15・1～7	同上4

## ●旧約④ ヤコブ・ヨハネ

行事	テーマ	聖書	暗唱聖句
1月29日	霊的祝福を 求めて	創世記25・19～34	ヘブル12・16
2月5日	神がこの所に 砕かれて 勝利する	創世記28・10～22	同上16
12日	摂理の神への 信仰	創世記32・22～32	ガラヤ2・20
19日		創世記50・15～21	同上20

## ●キリストの十字架への道

行事	テーマ	聖書	暗唱聖句
2月26日	主の再臨に 備える	マタイ25・1～13	同上13
3月4日	タラントを 活かす	マタイ25・14～30	同上21
11日	最も小さい者 のために	マタイ25・31～46	同上40
18日	真理に従って 生きる	マタイ27・11～26	ヨハネ18・38
25日	十字架による 救い	マタイ27・45～56	同上46

## 「水営路教会の教会学校」

―日本牧会者招待G&Gセミナーに参加して―

「鍵はCS教師！」

CS局次長 長田栄一

二〇一一年五月下旬の良い時期、日本の牧師、牧師夫人、総勢40名が、韓国、釜山にある水営路教会でのセミナーに参加しました。5月26日（木）～30日（月）、四泊五日のセミナーでしたが、早朝から夜中までのぎっしりのスケジュールを通して、多くのことを見、学び、感じた、濃密な数日でした。

私は、家内と共に参加させて頂きましたが、帰って二週間経った今（執筆当時）も、そこで見、学んだ多くのことを分ち合いつつある途中です。そうしながら、祈り

に導かれ、時には熱いディスカッション（？）に至りながら、少しずつ消化しつつあるところです。まさに、熱

い火を投じられて、この火をどのようなように扱ったらよいか、戸惑いつつ、主の導きを仰ぎつつ、進んでいるような状況です。

さて、今回は、特に水営路教会での教会学校の働きについて、見たこと、学んだことを、



水営路教会会堂



三名の参加者の報告によってお伝えしたいと思います。

まず、私からは、水宮路教会の教会学校の働き全般についての報告をさせていただきます。

## 一、新しく素敵な教育センター

まず、何と言っても参加者の注目を受けたのは、竣工したばかりの教育センターでしょう。本礼拝堂の前に建

てられた教育センターは、地上七階建て、地下三階建てで、地上部分が教育センター、地下三階は駐車スペース。建て坪は、一階分が約五百坪です。十階分です。約五千坪。その面積は、本会堂よりも広い坪数になる



教育センター

そうです。

私たちが伺った五月のはじめに竣工したということですので、まさにホヤホヤの状態でした。それだけに、そこに込められた様々な願いや祈りが、ダイレクトに伝わってくるようでした。

## ①天への梯子―教会学校教育プログラム

この建物の最も特徴的なことは、水宮路教会の教会学校教育プログラムが、目に見える形で表現されていることでしょう。

地上七階建て部分の各階に、テーマが掲げられています。一階は初代教会、二階は創造、三階は十戒、四階は使徒信条、五階は主の祈り、六階は聖霊の実、七階は世界宣教です。これらのテーマは、各階に上がる途中の階段に、絵やイラストなどを通して、視覚的に表現されています。

同時に、教会学校の子どものためには、年代に応じて、二階から七階まで上がっていくようになっていきます。一階は、「初代教会」ということで、小グループの

## 特集



天への梯子—創造

ための部屋がたくさん設けられています。そして、幼稚園は二階、小学校低学年は三階、中学年は四階、高学年は五階、中学生は六階、高校生は七階に、礼拝スペースが設けられています。

さて、実は、建物内のこれらのレイアウト設定によって、水營路教会の教育プログラムが見事に視覚化されています。各階のテーマは、その階に入ってくる各年代の子どもたちが、必ず学ぶことになるテーマなのです。すなわち、幼稚園では「創造」について、小学校低学年では「十戒」について、という具合です。最後の高校生では、「世界宣教」がテーマになってくるわけです。

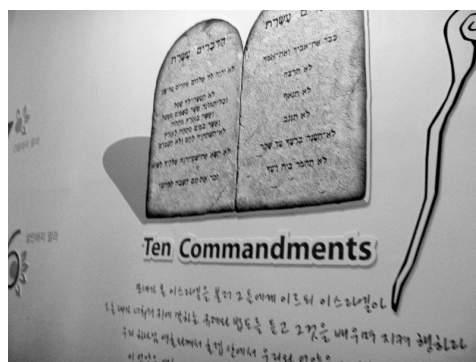
例えば、小学校低学年で学ぶ十戒については、一つの

戒めに対して、一名の専門の教師がいます。十戒全体で、十名の専門の教師がいることになります。小学校低学年の子どもたちは、二年の内に一回、これらの教師を通して、十戒を詳しく学ぶのだそうです。

これらの教育プログラムは、教師が変わっても教育課程が大きく変わってしまうことのないようにとの願いから設けられたものだそうです。もちろん、幼い頃から教会学校で育てられたのではなく、大きくなってから教会学校にやって来た者の

のためには、これらの課程をまとめた新来会者用プログラムを用意しているそうです。

現在、『牧羊者』は、三年カリキュラムのもとで執筆・編集がなされています。カリキュラム作成の時には、



天への梯子—十戒

様々な面からの配慮を込めて作ってまいりますので、相当の苦勞があります。しかし、カリキュラムの趣旨が、その後の『牧羊者』制作過程でどれほど十分踏まえられているか、もう少しよく点検してみる必要があるような気がします。

おそらくは、各教会学校の現場でも同様のことが言えるでしょう。日頃の教会学校活動の中で、カリキュラムの流れがどうなっているのか、確認しながら進めて頂くことも大切です。毎回のメッセージやワークでの学びを準備する際にも、カリキュラム上どういう目標設定がなされているのか、よく確認しながら準備して頂くことも必要でしょう。

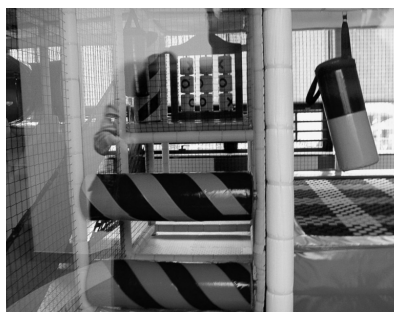
今後、『牧羊者』カリキュラム作成のためにも、教会学校局として、よくよく検討、吟味していく必要を覚えしました。

## ②ちりばめられた配慮

その他、教育センターを見学させて頂いて、幾つか、目が留まった点がありました。



中学年用の椅子



大型遊具の部屋

一つは、子ども連れの親御さんが、安心して教会に来ることができるようにとの配慮がなされていることでした。一階には、大きなカフェスペースがあるのですが、その奥には、子どもたちが遊べるスペースも用意されていました。また、ある階には、日本の大きなデパートにあるような、子どもたちのための大型遊具が集められた部屋もありました。

また、各年代に合わせた、すべてのものが備えられていること。例えば、各礼拝スパー



角の丸いテーブル

スには、それぞれの年代の子どもたちの体の大きさにピッタリと合う椅子が数多く並べられています。また、小さな子どもたちの部屋には、角の丸い、ぶつかっても痛くないテーブルなどが用意されています。礼拝スペース

の正面のイラストや、天井のデコレーションなども、すべて各年代に合わされています。「ユダヤ人には、ユダヤ人のように」という、パウロの宣教スピリットにも通じるものを感じました。

日本の教会学校の現場で、このようなことをどこまで適用できるかは分かりません。同じことはできないでしょうし、そうする必要もないでしょう。しかし、同じような「目」をもって見ていけば、私たちの現状に合った形で、随分多くの工夫を加えていくことができそうな気がします。

たとえば、小さな子ども連れのご両親が、教会の礼拝や集会により安心して集って頂くためには、どうしたらよいでしょうか。母子室の工夫、教会学校態勢や託児態勢の工夫など、それぞれの現状に合わせて考えてみると、案外できることがあるのではないのでしょうか。

また、教会学校の部屋の中や入り口などに、子どもたちの心を開かせたり、惹きつけたりするデコレーションを考えてみることもできるでしょう。安全面での配慮も、よくよく目を向けていくと、できることがいくつか見つかるかもしれません。

要は、そのような「目」をもって、もう一度私たちの働きを振り返ってみることはないでしょうか。

## 二、教会学校の鍵はCS教師

さて、教育センターの見学の前に、教会学校担当の副牧師の先生から、水宮路教会の教会学校の働きについて説明を頂きました。教会学校の成長の秘訣ということでした。話されたのですが、「ポイントは教師」ということでした。



幼稚園教師の写真

旧会堂時代、毎週の教会学校の前に教師会をし、一時間〜二時間、交わりをし、熱く祈っていたそうです。新会堂に移ってからでしょうか、教師会が立ち消えになったことがあったそうです。そうすると、教会学校の働きが弱まり、子どもたちの人数が減ったそうです。教師会が戻って来ると、子どもたちも戻ってきたとのことでした。

現在、CS教師は、チーム態勢で動いているそうです。五人のCS教師が一组になります。リーダー役の教師が他の四人の教師をケアしながら、家族のようになって奉仕しているそうです。教師の中には、色々な面で弱さを

持つ者がいる場合もありますが、チーム内でケアされることにより、段々と成熟した奉仕ができるようになるようです。

日本の教会学校の現場では、チームに分けるどころか、幾人かでも教師が揃えばありがたいような現状があるかもしれません。しかし、規模はるかに小さくても、「CS教師が鍵」という視点は大切だと思いました。

毎回のCSの働きのために、CS教師が心一つに祈りつつ、取り組むこと。教会学校の働きが強



09セミナー参加者.tif

められるために、まずはCS教師が育てられ、励まされ、強められるよう、教会全体でも配慮することなど、適用可能なことがあるような気がします。

水営路教会では、しっかりとしたCS教師の態勢を組むことにより、教会学校の働きが力強く進められています。たとえば中学校では、一年に八百名の新来会者があります。その八割は、メンバーの友人だそうです。

洗礼式は、大人と一緒に、十三歳以上になって、自分の口で信仰告白ができるようになってから受けることになっていくそうです。

あまりにも大規模な働きの中で、日本の私たちの教会にどのように当てはめたらよいのか、戸惑う部分もあります。しかし、しっかりと考えられた教育プログラムと共に、「鍵はCS教師」という単純な原点を、もう一度確認させられた思いがしました。

## 小学科（5、6年）に参加して

浜松真愛教会 今田雅子

私は小学科5、6年生の礼拝と、6年生のいくつかある分級のひとつに参加しました。小学科5、6年担当の先生方が、教会学校の礼拝の前に集まり、祈りと賛美とメッセージを聞いて礼拝し、同じ言葉により先生方が心をつにし、備えをしてから教会学校の礼拝の奉仕をされていました。

礼拝は学年ごとクラスごとに集まって座り、各クラスの担当の先生がクラスの子どもたちを気かけ、言葉をかけておられました。賛美リードのスタッフや子どもたちが皆の前に出て、一段高くなった舞台上で踊りながら賛美しており、少しショータイムのような感じで目を引きました。おそらく子どもたちをメッセンジャーに引き付けるようにしているのではないかと思いました。

この日の中心の聖書の箇所は、「わたしを愛し、わたしの戒めを守るものには、恵みを施して、千代に至るで





C Sに参加する子どもたち

規則である」と、神のみ言葉である十戒が如何に大切であるかを、スライドを見せながら語られていました。ポイントを押さえて視聴覚の教材を用いておられ、分かりやすく効果的であり、かつ子どもたちの興味を引き、大切なことが魂のうちに刻み込まれるであろうと感じました。私自身、視聴覚教材を効果的に用いているだろうかと考えさせられました。

分級は男女合わせて12、13人で、私が見学をしたので、

あろう」（出エジプト20・6）で、自動車事故の写真がスライドで写され、「シートベルトをしているなら命は助かる。神のみ言葉である十戒は命の帯、命を守る自動車のシートベルトと同じで、十戒は命のための

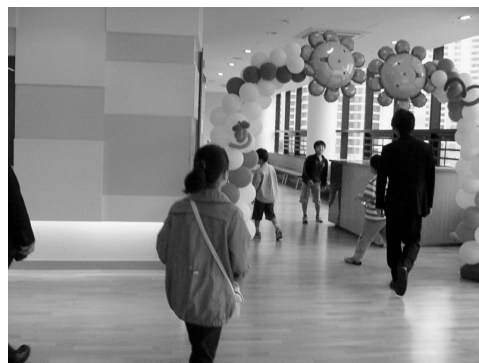
普段とは違う持ち方をされていたであろうと思われます。普段はワーク等をして、礼拝で聞いたみ言葉の学びを深めているようです。自己紹介をした後、私への質問の時間があり、その内の一つに「教会での子どもの礼拝は、どんな感じですか」と質問を受けました。自分たちと同じ年代の子どもたちが、どんな様子で礼拝をしているのか、どんな礼拝なのか、とても興味を持っていました。東日本大震災の事についても質問を受け、自分たちの事だけではなく日本の国の大きな災害の事を思つての質問は、やはり6年生であると思いました。その後ブレゼントを頂き、お祈りをし、一人ひとりと握手しました。そして最後に担当の先生とも抱き合つてその場を後にしました。

通訳をしてくださった方が、「分級を担当していた先生は、学校の先生で自分のクラスの子どもたちを導いている」と教えてくれました。いま日本で学校の先生が、自分のクラスの子どもたちを教会学校に導くというのは難しい事であると思います。この教会学校の先生の子どもの魂に対する熱い思いがひしひしと伝わってくると同時に、私自身も子どもの魂に対する熱い思いが湧き

## 特集

上がりました。

主日の教会学校礼拝の回数は3回あり、私が参加した5、6年生の礼拝は約三百人で、1日の5、6年生の礼拝人数は、約五五〇人です。教会学校の礼拝とはいえ、礼拝回数をはじめ人数等、全てに於いてあまりにも規模が違いすぎますが、教会学校の先生方の思いは一つであり、私たちの思いとも重なることがあります。それは、子どもたちがイエス様を信じて救われ、弟子とされ、良きキリスト者となり、願わくは出て行つて福音を伝える者になつてほしいということ。その為に見えない所でどれ程祈り、フォローをしておられるのかと思いました。



C S入り口

国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ」(マタイ28・19〜20)。教会学校の先生方のお一人おひとりが、このイエス様の大宣教命令を、魂を愛する熱い思いを持って行つておられると思いました。

私自身も心を新たに、教会学校の先生として奉仕していききたいと思います。

## 教会学校高校科レポート

神戸西部教会 犬塚寛子

「恵みと成長セミナー」で日曜日の高校科礼拝を参観させて頂きました。

高校生も一部、二部と時間をずらして礼拝堂で礼拝がもたれています。私たちが見学したのは十一時からの礼拝でしたが、まずその為に各部礼拝担当のCS教師会が、礼拝の二時間前から始まります。



当日も九時からのCS教師会を見せて頂きました。まず高校生担当牧師が教師全員を対象に、その子どもたちに語るメッセージを語ります（一部礼拝の教師は六十（七十人位）。それは教師がまず恵まれないと、恵みを子どもたちに伝えられないからです。メッセージの後に、今日子どもたちに必ず語らなければならない要点は何なのか、を担当牧師が話します。質疑応答の時間を持って質問に答えます。

このCS教師の方々は、二万五千人の教会員の中からボランティアを募って、教師として用います。ベテランから新米の教師もいますので、先生によつて生徒たちが格差を受けないようにする為に、毎週このように学んでいるのです。

その後、教師は五人ずつきめられたグループに別れます。教会から配られた巻きずしをかじりながら、グループで折り、自分の生徒の現状を分かち合い、交わり、共に祈ります。グループの中で一番ベテランの先生がリーダーとなり、ケアします。もし、欠席した先生がいた時は、リーダーがその先生の生徒もサポートします。とても和気あいあいとしたムードで、先生たちもグループ

で交わっておられます。巻きずしは、朝早く遠くから来られる教師は朝食をとれないので、教会で共に食べます。

祈りの後、十一時からの礼拝の為に移動します（この会議室では、引き続き二部の教師会が始まります）。一部の礼拝には三百人位集まっていたでしょうか。ワッシュプソングから始まり、祈りが奉げられます。高校生たちが賛美リードも演奏も導きます。一生懸命、神様を賛美している姿に喜びが溢れてきます。

その日の礼拝は「サランパン祭り」（年二回ある特伝のようなもの）の週で、特別ゲストにゴスペル歌手が登場し、会場は拍手喝采です。二十歳位の素敵な女性です。なんと、そのシンガーは数年前にこの高校科を巣立った



高校科

OGで、彼女も母親もこの教会の会員です。生徒たちが応援する訳がわかりました。とても上手で、信仰のある歌声でした。続いて担当牧師のメッセージ。献金、祈り、新来会者の紹介がありました。

礼拝は小グループ五人〜八人ごとにかたまって座っていますので、その場で小グループでの分級です。各グループの教師が立つて導きます。私たちは高三の五人グループの中に混ぜてもらって、一緒に体験させて頂きました。先生は一人一人の状態を把握して声をかけていきます。メッセージを受けて、今日の要点を具体的に語ります。

ある女の子はクラシックバレエを習っていて、足を怪我してしまい、「今週の礼拝に行けない」と先生に伝えました。先生はその子の所に出掛けて行って、「神様がその足を癒して下さいように」と祈りました。すると、その女の子は、「信仰によって癒された」と信じてまだ少し痛かったけど、その日の礼拝にやって来たのです。その女の子と先生は抱き合って神に感謝して祈りました。その光景を見ていた私たちも感動し、神の御名を崇めました。

また受験生三人の男の子は受験勉強で、とても疲れていました。本当は、ゆっくり休みたいけど、がんばって礼拝に出て来たのです。先生は「よく出て来たね!」と励まし、一人一人の為に祈りました。そして、「神様に喜ばれる道を選択しなさい」と具体的に大胆に語ったのです。「遠くの大学に行かないで、この地でクリスチャンとして主に仕えなさい」と勧めました。信頼関係がないと、そこまで言えないなあと思います。そして一人一人をハグして祈って、共に差し入れのヨーグルトを頂いて分級を終えました。

私たちも温かい交わりの中に入れて頂きました。先生はいつも祈り、母親のように包んで、子ども一人一人に接している姿に、神様の大きな愛を感じ、こんな先生にならせて頂きたいと深く願われました。三百人という大勢の中で孤独にならず、しっかりと小グループを通してイエス様と兄弟姉妹とつながって、主の弟子となるように育てられている姿を見せて頂きました。

次の世代を担う若者の育成の為に、多くの祈りと力が注がれていることを教えられ、出来る所から取り入れさせて頂き、私たちも主の恵みにあずかりたいと願います。

# 聖書 ルカ10・38〜42 テーマ 無くてならぬもの

## 序論

(福井文彦)

イエスの一行がエルサレムに向かわれる途中、ベタニヤの村に住むマルタとマリヤの二人の姉妹の家をお訪ねになったときのことです。二人は主に対して対照的な行動をとりました。そのとき、忙しさに気をいらだて、腹を立てた姉のマルタに対して、静かにイエスは、〈無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである〉と言われました。

## 一、マルタとマリヤ

イエスが村へ入られると、マルタは主の一行を家に迎え入れました。しかし、この訪問は突然のことではなく、予定されていたことだと思われます。そこで今までイエスのために接待の準備をしていたマルタは、再び準備を始めたのです。

〈ところが、マルタは接待のことで忙がしくして心をとりみだし〉とありますから、姉のマルタだけが、料理などの準備をしていたように見えます。ところが、文語

訳聖書には「主よ、わが姉妹われを一人のこして働かするを、何とも思ひ給わぬか」とあります。ここに、「われを一人のこして」とありますから、イエスをお迎えするまで二人一緒に接待の準備をしていたのです。

しかし、イエスをお迎えしてマルタは台所に行き、再びイエスの接待の準備を始めたのです。一方のマリヤはイエスのお話を聴くことを選び取り、そのまま〈主の足もとにすわって、み言葉に聞き入って〉いました。ところが、マルタは忙しくて、接待の準備が思うようにはかどらないために気をいらだてて、マリヤとイエスの両方に腹を立てたのです。

## 二、無くてならぬもの

マルタは〈イエスのところにきて〉、〈主よ、妹がわたしだけに接待をさせているのを、なんともお思いになりませんか〉と、イエスとマリヤの二人を非難しました。自分だけ働かせて、一人イエスの足元にすわっているマリヤもマリヤだが、それを許しておられるイエスもあるまりだ、と非難しました。さらに〈わたしの手伝いをするように妹におっしゃってください〉と、イエスに対して命令したのです。本当は彼女が命じられるべき存在で

1月

1日

聖書講解

あるにもかかわらずです。

そのときイエスはおっしゃいました。〈マルタよ、マルタよ、あなたは多くのことに心を配って思いわずらっている。しかし、無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである。マリヤはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである〉。

マルタはいろいろなためなしのために気が落ち着かずにいました。そこでイエスは本当に必要な食事はわずかです。いや一つだけです。それはみ言葉を食べること、すなわち、み言葉に聴くことであると言われたのです。

### 三、み言葉に聴く幸い

それではみ言葉に聴く幸いとはどのようなものでしょうか。

一、み言葉はいのちを与えます。イエスは「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである」（マタイ4・4）と言われました。人は神のことばによって養われ、支えられ、初めて真のいのちに生きることが出来ます。

二、み言葉によって成長します。「今生れたばかりの

乳飲み子のように、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。それによっておい育ち、救いに入るようになるためである」（1ペテロ2・2）。「それによっておい育ち」が新改訳では「それによって成長し」とあります。み言葉によってクリスチャンは成長するのです。

三、み言葉に聴従するとき勝利、祝福があります。み言葉に聴従するとは、み言葉を心に貯えて、私たちの人生が心の中にあるみ言葉によって律せられて行くことです。そのとき、勝利、祝福、繁栄があります（ヨシユア1・7〜8）。

四、み言葉によってみこころを知ることです。マリヤは、「高価で純粋なナルドの香油一斤を持ってきて、イエスの足にぬり、自分の髪の毛でそれをふいた」（ヨハネ12・3）のです。マリヤはみ言葉を聴いて、みこころを知り奉仕したのです。

### 結論

クリスチャンにとって最も大切なことはみ言葉に聴くことです。そのため、聖霊によって生活を律し、「デボーション」のときを確保することです。

## 研究資料

(宮澤清志)

この記事は、ルカによる福音書に特有の資料であり、この箇所からメッセージを語るに当たっては、以下の2点を備えとして知っておきたい。

まず、説教を語るに際しては、当該箇所のみに目を留めるのではなく、その前後の箇所にも注意深く目を通す必要があるということである。特に、この箇所においてはその前の箇所にある「よきサマリヤ人のたとえ」(25・37)にも十分目を通しておきたい。なぜなら、「よきサマリヤ人のたとえ」と今回の聖書箇所とは相補的な関係に立っており、両者とも『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。また、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』(10・27)という、律法学者の回答を具体的に見せた物語として描かれているからである。「よきサマリヤ人」「マリヤ」ともに「神の御言を聞いて行う者」(8・21)、すなわち弟子の模範として描かれているのであり、両者の行為は両方共に主の弟子としては欠かしてはならないものである。

もう一つ、この箇所の主人公である「マルタとマリヤ」

の人物像である。今回の聖書箇所の他にヨハネ11・54と12・1・11にも同時に目を通して頂きたい。すると、マルタは「イエスがこられたと聞いて、出迎えに行った」が、マリヤは「家ですわっていた」(11・20)。またマルタは「給仕をしていた」(12・2)。見事に今回の箇所と一致する。更にマリヤは「高価で純粋なナルドの香油一斤を持つてきて、イエスの足にぬり、自分の髪の毛でそれをふいた」(12・3)ともある。主の足もとに座ってみ言葉に聞き入るにせよ、ナルドの壺を一撃のうちに割るにせよ、それらはマリヤにとっては主に対する愛の表れであったことに注目したい。と同時に、その行為は周囲の人々の憤激を買う非常識な行為と思われたことも付記したい(ルカ10・40、ヨハネ12・5)。

## テキスト

**38 ある村** 「ベタニヤ」のこと。マルタとマリヤの家は、このベタニヤにあった(ヨハネ11・1、18)。

**39 主の足もとにすわって、御言に聞き入っていた** マリヤのこの行為は、弟子としての行為である(申命記33・3、使徒22・3「ガマリエルの足もとで」が直訳)。「足もと」とは、弟子の位置であり、当時、ユダヤ教の教師(ラビ)たちは、女性が「ひざまずく」こと、つまり弟

1月

1日

研究資料

子になることを許しはしなかったのである。このことから、マリヤは自ら男性と同様に振る舞っていたのであり、このことがマルタの怒りを増幅させたとも考えられる。マルタはこの当時の常識的な考えにとらわれていたのである。ちなみに「足」とは神による勝利者をあらわす言葉であり、ひれ伏すべき「足」であり、また教えを請うべき「足」という意味も持っている。

**40 接待** (ギ)ディアコニア 文字通りには「奉仕」であり、「もてなし」(新改訳、新共同訳)、「手厚き奉事」(新契約聖書)等と訳されている。ルカはこの言葉に**心をとirimだし** (ギ)ペリスバオー)を入れることによって、否定的に捉えている。またこの語は、「まわりへと引かれる」という意味を持つ言葉でもあり、マルタは多くの奉仕へと引かれていたのである。

**41 & 42** この物語のクライマックス。  
**41 心を配って** (ギ)メリムナオー) その人の実存に関わる重要な事柄が心を取りこにする、というような意味を持つ。心の分割、分散をも意味する言葉である **思いわずらっている** (ギ)ソリュバゾー) 混乱させる、という意味。外側の動揺をあらわす言葉である。受動文であり、多くのことによって心乱されていることを、「心を

配る」と重ねることによって更に強調した文章である。  
**42** 多くの翻訳のある言葉である。  
**方** (ギ)メリス) 分け前、(食事の) 分量、という意味の言葉。

マルタは自らの義務を果たそうとするあまり、イエスの教えを傾聴することを拒んだ。イエスを囲む「持ち分」のために、せつせと立ち働いていたのである。他方マリヤは「良い方」を選択したのである。マルタはイエスに、彼の取るべき行動を指図しようとする。他方マリヤはイエスに、彼女が何をすべきかを語ってもらおうとしたのである。この差は大きい。私たちも、しばしばマルタのように、主に指図をするという大胆にも大きな罪を犯してしまうことがある。しかし、私たちがすべき事は、他のすべてを脇に置いて、イエスの教えに聞き入ることである。これがすなわち「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」。また、『自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ』(27) という新約の律法を成就することなのである。そして、このことは「取り去ってはならないもの」(42)なのである。

参考図書 1/15の参考図書を参照。

1月

# 1日 礼拝メッセージ例

聖書

ルカ10・38〜42

タイトル

イエス様の御声を聞こう！

暗唱聖句

無くてはならぬものは多くはない。

目 標

いや一つだけである。ルカ10・42

人間にとってなくてはならないこととして、み言葉に聞く。

## 導入

(飯田勝彦)

明けましておめでとうございます。主にある2012年が始まりました。

新しい年、何を願いながら、この年をスタートさせたでしょうか。

「今年こそは、サッカーが上手くなるぞ!」とか「今年こそは、ピアノを始めるわ!」など、いろいろあるでしょう。

どれも皆さん自身の願いや決意ですね。では、イエス様は今年、皆さんにどのような願いや決意です。では、イエス様は今年、皆さんにどのような願いや決意です。では、イエス様は今年、皆さんにどのような願いや決意です。

ぜひ、イエス様に喜んでいただける1年とさせて頂きたいですね。

## イエス様の御声が聞けないマルタ

ある時、イエス様がマルタとマリヤの家を訪問されました。もし、野球の松井選手や、なでしこジャパンの沢選手が皆さんの家を訪ねて来たらどうでしょう。皆さんは、心臓が口から飛び出るくらい緊張しながらも、喜んで家を掃除するかもしれません。また、どんな話をしようか、どうしたら喜んでもらえるだろうかと一生懸命に考えて、もてなすでしょう。

マルタもそうでした。マルタは、イエス様に自慢の料理でもてなそうとしたのでした。台所に立つて腕をふるっていました。包丁の音も何かリズムカルに聞こえてきます。

しかし、途中からマルタの様子が変わってきました。喜びに満ちていたはずのマルタが、だんだんとイライラしてきていたのです。それは、妹のマリヤが何もせず、イエス様の言葉に耳を傾けていたからです。そして、マルタのイライラが最高潮に達したとき思わず、マルタは「イエス様! マリヤは、わたしだけに接待をさせています。イエス様、何ともお思いませんか! マリヤに手伝うように言ってくださいよ!」と、イエス様にそのイライラをぶつけてしまったのです。

その時、イエス様は「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに心を配って思いわずらっている」と言われました。



1月

## 1日 礼拝メッセージ例

実際にマルタは、イエス様をもてなすことに頭がいっぱいになっていました。そのため、イエス様に喜ばれることができなかったのです。

皆さんは、学校から帰ってから、塾や、サッカー、野球、ピアノなどいろいろな習いごとで忙しくしているでしょう。その中で、どれほど聖書を読んだり、お祈りをしたりして、イエス様の御声を聞いているでしょうか。イエス様は、あなたが特別なことができる以上に、「わたしの声を聞いて欲しい」と願っておられるのです。

### イエス様の御声を聞くマリヤ

思いわずらいイライラしているマルタに、イエス様は、「無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである。マリヤはその良い方を選んだのだ」と言われました。マリヤが選んだものは、無くてはならないものでした。皆さんの無くてはならないものは何ですか。イエス様が言われた「無くてはならぬもの」とは、イエス様のみ言葉だったのです。聖書の中に「人はパンだけで生きるのではなく、神の口からでる一つ一つの言葉によって生きる」とあります。私たちが生きて行くには、どうしても食べ物がが必要です。しかし、もう一つ必要なものは、心の食べ物であるイエス様のみ言葉なの

です。

イエス様のみ言葉は、私たちの心を豊かにします。それは、神様の愛が分かる心、神様の愛に応える心、自分を愛するよう隣り人を愛する心、神様の喜ばれることを進んで実行する心にされることです。

イエス様は今年、皆さんに「私の言葉を聞いて欲しい。そして、心の豊かな人になって欲しい」と願っておられるのです。

では、どのようにしてイエス様の御声を聞くことができるでしょうか。それは、聖書のみ言葉を通してです。聖書には、イエス様が私たちに伝えたいことや心の栄養がいっぱい詰まっています。

マリヤはマルタと違って、イエス様の御声を聞く良い方を選び、イエス様にほめられています。

### まとめ

今年、マリヤのように少しでもイエス様の御声を聞く時を選びましょう。必ず、イエス様があなたの心を豊かにしてください。

♪わたしは主の子どもです♪

(ホーリネス子どもさんびか88)



# 聖書 ルカ11・1〜13 テーマ 切なる祈り

## 序論

(福井文彦)

最初弟子たちは、イエスの素晴らしい説教とみわざだけが覚えていました。ところが、ずっと一緒に生活しているうちに、イエスのもう一つの姿が見えてきました。それはイエスの祈る姿です。そして、実は、イエスの大きなみわざはこの祈りに支えられていることを知ったのです。それで弟子の一人が、〈主よ、……わたしたちにも祈ることを教えてください〉と願い出ました。そのときイエスは切に祈ることを教えられたのです。

## 一、模範的な祈り

そこで、イエスは弟子たちに模範的な祈りを教えられました。それが2節から4節です。それは五つの嘆願からなるとても短いもので、同時に、個人の基本的必要をすべてカバーしています。その内容は①〈御名があめられますように〉。これは、「神の聖なる御名が礼拝され、賛美されるように」という祈りです。②〈御国がきますように〉。これは、「神の国、すなわち神の支配が実現し、

神だけが全世界の王となつてくださるように」という嘆願です。

続く3〜4節は、クリスチャンが2節の二つの祈りを実践するうえでの必要を求めた祈りです。③〈わたしたちの日ごとの食物を、日々お与えください〉。これは、「私たちの霊肉に必要な、欠くことのできないものを日々お与えください」との祈りです。④〈わたしたちに負債のある者を皆ゆるしますから、わたしたちの罪をもおゆるしてください〉。これは、心のありのままを申し上げて罪の赦しを乞う祈りです。⑤〈わたしたちを試みに会わせないでください〉。これは、「私を罪の力、犯罪の力、誘惑の力に会わせないでください」との祈りです。主のこの教えのように私たちも祈ることです。

## 二、しきりに願う

そこでイエスは一つのたとえを話されました。ある人に夜中に友だちが訪ねてきました。中近東は、昼は暑いために、夜になってから移動をするので、夜中に家に着くことがあるようです。その友は空腹でしたが、家には何もありませんでした。そこで、真夜中に近くの友人の門をたたいて、パンを三つ分けてくれるように頼むので

1月

8日

聖書講解

す。

当時の庶民は、キルティングのようなものを、土の床に置いて、全家族がその上で寝て、大きな毛布で全員をおおうものでした。このとき、友人は、子どもたちと共にすでに寝ていましたから、もし彼がパンを探し、分けてあげるために起き上がると、全家族をわずらわすこととなります。そこで彼は断りました。それは無理からぬことでした。

ところがイエスは言われたのです。へしかし、よく聞きなさい、友人だからというのでは起きて与えないが、しきりに願うので、起き上がって必要なものを出してくれるだろう。ここで、イエスは祈りこそ神の恵みを受ける手段であり、へしきりに願う。忍耐強い祈り、祈りにおける根気強さの必要を教えられたのです。

### 三、神は祈りを聞いてくださる

5〜8節のたとえば、神を根負けさせるような激しい祈りの勧めと誤解されることがあります。しかし、ここで教えられていることは、神が祈りを聞いてくださることの確かさです。そのことはこのたとえの教訓として教えておられる9〜10節から明らかです。

イエスは〈求め〉でも、答えが得られなければ、もつと熱心になつて〈捜〉すべきである。それでもなお、答えが来なかったならば、結果を得るまで、死に物狂いで〈たたけ〉、そうすれば希望がかなえられる、と教えられました。友人関係を土台にして、へしきりに願うのでパンが与えられます。ましてや私たちが神を父と呼ぶ父子関係を土台とにしてへしきりに願う（厚かましく願う）なら、神は忍耐深い祈りに心を動かしてくださり、聞いてくださるのです。

このような祈りに対する神の恵みの確かさは、11〜13節のもう一つのたとえば一層明確に教えられています。人間の父親であつても、子どもに良い物を与えるとするならば、まして、天の父は、求めて来る者に、人間の父よりもはるかに良い物（聖霊）をくださらないはずはないのです。

### 結論

イエスは、弟子たちに模範的な祈りを教え、神がいつも祈りに答える用意があり、また必ず答えてくださることを保証することによって、彼らに祈り続けるようにと励まされたのです。

## 研究資料

(宮澤清志)

一見して分かるように、この箇所は、1節の導入に続き、主の祈り(2〜4)／真夜中の友人(5〜8)／祈りにおける信仰の必要(9〜13)という3つの部分に分かれている。

しかし、統一したテーマは「祈り」であり、注釈者や説教者の様々な書物を紐解いてみても、この箇所のテーマが祈りであることを強調する。この箇所全体の導入として、ルカは模範となるイエスの姿と弟子たちの要求とを描く(1)。祈るイエスの姿は、弟子たちに祈りへの渴きを引き起こしたに違いない。祈りは単なる感情の発露ではなく、教えられ、経験され、そして訓練されるべきものである。そのことをこの箇所から伝えたい。

## テキスト

**2〜4 主の祈り** 並行記事としてマタイ6・9〜13の主の祈りの記事がある。マタイの主の祈りと比較して、様々な考え方があ

**2 父よ** 直訳すれば「お父ちゃん」という呼びかけである。ここに見られる祈りは、父なる神に、家族的親密さをもって近づくことのできる特権をクリスチャンは与えていることを示す。  
**あがめられ(ギハギアゾー)** 聖とされる、という

意味の言葉。神への奉仕のために世俗のものから引き離すことを意味する。**御国** 神の恵みの支配。空間的領域的なものではなく、関係的概念である。

**3 日々お与えください** この祈りは、「毎日与え続けてください」と理解できる。

**4 罪** マタイの主の祈りでは「負い目」となっている。ルカはこの福音書を異邦人向けに書かれたのであって、ルカの心中には、おそらく異邦人には罪という言葉の方が身近であると感じたのではないかと考えられる。**わたしたちを試みに** 一般的に、罪を犯す危険を伴った誘惑のある状況にいての嘆願と解釈すべきである。

**5〜8 真夜中の友人** この箇所はルカ独自の記事であり、祈りについてのルカの3つのたとえ話の中の1つ(他の二つは18・1〜14)である。

**5 あなたがたのうちのだれかに** この中の「だれか」は、原文では疑問文であり、「あなたがたのうちで、だれか」と訳すことができる文である。当然、その答えとしては「誰もいない」という否定的なニュアンスを持つことを前提としている。すなわち、このたとえ話の主人公は、私たちの想像を超える強引な求め方をしているのである。**パンを三つ貸してください** 「パンを3つ」とは、ひとりが食する一日分の

1月

8日

研究資料

分量。また「貸す」とは、商取引上の、いわゆる「利子を付けて貸す」(6・34)とは異なり、友情における貸し借りのことである。

6 パレスチナでは、日中の暑さを避けるために、夕方から旅を始めることはごく普通のことであったようである。また、村人の生活は、どの家庭にどのくらいパンが残っているかを知っているほどの近所づきあいの中で生活をしていた。

7 この家人は、パンの貸し借りそのものを否定しているのではない。当時の戸はかんぬきで締められており、そのかんぬきを外すこととは大変だったろうと思われる。またかんぬきを外す音によって同じ部屋に寝ていたであろう子どもたちが起きてしまうことも危惧された。しかし、友人は、それを承知の上で夜中にやってくる。この両者の信頼関係がこの物語の背後にはあるのである。

8 しきりに 原語では「厚かましく」「恥知らずに」という意味を持つ。この友人は、願うことにおいては厚かましかったのである。彼の隣人は、この友人が、友人であるということとでパンを貸したのではなく、彼の厚かましき、図々しさに根負けしたのである。

9〜13 次に続く箇所は、これまでの真理をさらに展開する。この箇所は、三つの格言(求めよ、捜せ、門をたたけ)と二

つの問いとからなる。これらの問いは、父親の我が子に対する優しさを、父なる神の、更により大きな恵みと対比する。そして、「天の父はなおさら」(13)という結論へと達する。なお、この箇所は、並行記事としてマタイ7・7〜11がある。これも参照して頂きたい。

9 求めよ この言葉はしばしば祈りの文脈の中で用いられている(マタイ18・19、マルコ11・24、ヨハネ11・22他)。

捜せ この言葉は、しばしば神とその救いを求める文脈の中で用いられている。またそれらは祈りへと導かれるものである。**門をたたけ** ラビ文書においては、通常祈りの暗喩的表現として用いられていた。

11〜12 この箇所はマタイ7・9〜10に並行記事が登場するが、相違点がある。しかし、いずれにしても、両者の話の論旨に影響はない。

13 この箇所にはもう一つ、マタイとの相違がある。それはルカでは **聖霊** と書かれてある箇所が、マタイでは「良いもの」と訳されていることである(11)。ここでは聖霊とは、祈りがきかれて与えられる賜物としての聖霊である。

参考図書 1/15の参考図書と同じ。

1月

8日

## 礼拝メッセージ例

げればきりがありません。イエス様は、お祈りを愛し、実際に毎日お祈りを欠かさない方でした。

今朝の箇所にも「イエス様が祈っておられた」とあります。イエス様は、祈りを通して神様と親しく交わり、そこから力や慰めや支えを与えられていたのです。

イエス様が祈り終わると、弟子がイエス様に「祈ることを教えてください」と言ってきました。そこでイエス様が教えられたのが、主の祈りでした。この祈りは、皆さんも教会学校で毎週ささげているでしょう。これは、イエス様が教えてくださった大切なお祈りです。

祈りは、「…してください」とお願いだけではなく、神様への賛美があります。私たちもこの主の祈りを手本として、もつと神様を賛美し、また心からの願いを祈りに込めてお祈りしましょう。

祈る人は、豊かな神様の祝福を受けます。

### しきりに祈り求める

イエス様は、弟子に主の祈りを教えられた後、一つのとえ話をされました。それは、真夜中に友人のところにパンを借りに行った人のお話です。

もし、皆さんが寝ている時、友だちから電話かメールで

### 導入

(飯田勝彦)

皆さんが、この年の初めに神様に祈りお願いしたことは、何でしたか？ その祈りは、今も続いていますか？

心から真剣に祈る願いは、すぐに忘れることではないでしょう。ですから、「あなたの願いは何ですか」と聞かれると、「うん。え」ととじつくり考えなくても、すぐに「僕が祈り願っていることは、…です」と言うことができると思います。

また、その祈りは三日坊主で終わることもないでしょう。神様は、真剣に求める祈りに応えてくださいます。

### 祈りを教えてください

皆さんは「イエス様はどんな方ですか」と聞かれたら、どのように応えるでしょうか。「奇跡を行う方」、「すべての人を愛した方」、「私たちを救ってくださる方」など、あ

1月

8日

礼拝メッセージ例

「悪いけど、今から明日の朝食食べるパンを貸りに行ってもいい？」としつこく連絡されたらどうしますか。

パンを頼まれた主人は「しきりに願うので、起き上がった必要なものをだしてくれるであろう」と言われました。そして「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。すべて求める者は得、捜す者は見いだし、門をたたく者はあけてもらえるからである」と言われました。

この「求め、捜せ、たたけ」は、求める思いがだんだんと強くなっています。

たとえば皆さんが、暑い中を外に出かけたとき。あまりの暑さに喉が渇いてきました。すると何か飲み物を求めるでしょう。そして、近くにある自動販売機に行つて自分の欲しいものを捜すでしょう。もし、あつたならお金を入れて買うでしょう。

そのように、求め、捜し、たたくとは真剣に求める姿を表しています。私たちが神様に向かってパンを借りに行った人のように、しきりに求め、捜し、たたくことをイエス様は求めておられます。

私たちの祈りが口先だけのものではなく、神様に真剣に求める祈りでありますように！

### 祈りは応えられる

皆さんは、多くの貧しい人たちに神様の愛をもって仕えたマザー・テレサを知っているでしょう。彼女はある時、多くの困っている人を助けるために使っていないビルを借りようとしました。しかし、政府から断られたのです。でも、マザーはあきらめず、真剣に祈り続けました。すると、不思議なようにその場所をタダで借りることができたのです。神様はお祈りに必ず応えてくださいます。

パンを借りに行った人は、来客のために夜中に友人の所へ行きパンを求めました。自分のために祈ることも大切ですが、友だちや家族の必要のために真剣に祈る者にされましょう。それが、隣人を愛することなのです。

### まとめ

皆さんのどんなに小さな祈りでも、神様は耳を傾け、それに応えてくださいます。神様に遠慮しないで求め、捜し、たたきましよう！

♪十字架の側に立つて♪ (プレイズ・ワーシップ 2 62)

## 聖書 ルカ12・13～21 テーマ 地上の富ではなく

### 序論

(山田和幸)

イエスは偽善を戒め、日常生活のことで心配するのではなく、神の国を求めることが大切だと説いておられました。その最中に、財産問題の調停話を頼みに来た人があったのです。この人にとって財産問題は、神の国について教えるラビにこそ解決されるべき、重要課題に思っていたのです。

お金こそ最も大切なことなのでしょうか？お金で幸せが買えるのでしょうか？

### 一、財産が魂を養う？

イエスは、ここでも譬で教えられました。命と魂の安全が、財産で保障されると誤解している金持ちの話です。実は、備えをすることは、聖書的なことです。創世記に記されたヨセフの話は有名です。ヨセフは七年間の豊作の内に、七年間の飢饉の蓄えをしたのです。また、「子供は親のために財をたくわえて置く必要はなく、親が子供のためにたくわえて置くべきである」(Ⅱコリン

ト12・14)というみことばもあるように、将来のための蓄えは、大切なことです。

ただ、「もし主の御心ならば」という姿勢が必要です。「よく聞きなさい。『きょうか、あす、これこれの町へ行き、そこに一か年滞在し、商売をして一もうけしよう』と言う者たちよ。あなたがたは、あすのことわからぬ身なのだ。…むしろ、あなたがたは『主のみこころであれば、わたしは生きながらえもし、あの事この事もしよう』と言うべきである」(ヤコブ4・13～15)とある通りです。

確かにお金は大切なものです。必要なお金が不足していることは大変なことです。ただ、十分な財産があれば、魂に本当の平安が満たされるわけではありません。

### 二、魂は誰のもの？

この金持ちが、蓄えたこと自身が問題だったのではなく、その姿勢に問題があったのです。この金持ちの何が間違っていたのでしょうか。何故愚かだったのでしょうか。

この金持ちは大豊作を得た時、神の御手を見るのではなく、自分のことだけを見ました。日本語の聖書では充分には訳出されていませんが、「わたしの作物…、わた



1月

15日

聖書講解

しの倉…、わたしの穀物…、わたしの食糧…」と、ここでは「わたし」が非常に強調されています。この金持ちの自意識の強さが表されているのです。彼の興味は自分のことだけでした。

では、彼の魂は彼のものだったのでしょうか。彼が充分な蓄えをしたことで、彼の魂は安逸を約束されたのでしょうか。答えは、いいえです。人の魂を支配しているのは、いったい誰なのでしょう。神様だけが人の魂を支配し、人の命を決めておられます。その神様が、富を得た人間に何を求めておられるのかを見ることが大切なのです。

### 三、神に対して富む

イエスの時代のユダヤ人もそう考えていたように、物質的な祝福も、神様が与えてくださったものです。富そのものは、善でも悪でもありません。ただ、富を得たときに神のことを考えるか、自分自身のことを考えるかで、益になるか害になるかが分かれるのです。（神に対して富む）む必要があります。

この金持ちが、自分の為だけに財を蓄えることを考えたのが、神の前には貧しいことだったのです。そうでは

なく、神のために用いること、清い使い道を考えれば良かったのです。ジョン・ウエスレーは「多く稼げ、しっかりと蓄えよ、大胆に献げよ」と言ったそうです。それこそが、私たち神の前に生きる者の、富に対する考え方です。

新約聖書には、「天に宝を」という表現が繰り返されています（マタイ6・20、19・21、ルカ12・33、18・22）。自分のために蓄えるのではなく、人のためにきよく使うことこそが、すなわち天に宝を貯えることになるのです。

### 結論

この譬えを読み解く鍵は（あらゆる貪欲に対してよくよく警戒しなさい。たといたくさんの物を持つていても、人のいのちは、持ち物にはよらないのである）です。イエスは、貪欲に注意するよう教えられたのです。その人の命が財産によらないだけではありません。宝のあるところにその人の心もあるからです（34節）。



## 研究資料

(宮澤清志)

この箇所は、基本的には12・1から始まる、イエスの弟子たちに対する教えの中の挿入である。イエスがまず弟子たちに向けて教えておられる最中、そこにいたひとりの群衆がイエスに語った言葉から始まる。その教えは実際には34節まで続いている。わたしたち備える者は、ここまで目を通しておく必要がある。今回の聖書の箇所である21節までは、主としてそこにいた群衆に対する教えであり、次に展開される22〜34節までは弟子たちに対する教えであり、「心配」「思い煩い」に対する警告が語られる。

## テキスト

**13 先生** 原語では呼格が用いられており、主にに対する呼びかけの言葉であることが分かる。これは、ユダヤ教で一般に行われていた「ラビ」という律法学者への呼びかけに対応する。この群衆のひとり、イエスをラビのひとりとして理解し、そのイエスに自分の家族の遺産問題の調停人としての役割を期待したのであろう。当時のユダヤ教のラビは、その地域社会の家庭民事の調停者の役を兼ねていた。

**14** 伝統的なラビの役割としては、このようなりくイエスに対して直接答えるのを常としていたようである。しかし、

イエスはこれまでのようなラビの役割を超えて自身の究極的関心を開陳する。

**15** ここから人々に対する警告が始まる。 **貪欲** 通常の金銭欲よりも包括的であり、なおかつ強烈な言葉である。たとえばコロサイ3・5では、この語は偶像礼拝と同一視されており、神の代わりに物を拝む事と同一視されている。あるいはⅡペテロ2・3においては、自分の地位を利用し、仕えるべき人から逆にむさぼり、同胞を、利益を得る相手と見なして、仕えるべき神の子と考える罪とされている。この箇所では、人生の価値は所有する物の数にあると考える人がもつ罪であり、物を得ることだけを欲し、与えることを決して考えない人の持つ罪であると考えられる。

**16 & 20** ここから、いわゆる「愚かな金持ち」のたとえ話が始まる。ハンターは、通常このたとえ話は貪欲に対する「恐るべき警告」として理解されてきたと前置きし、その上で、この譬は「時」の譬であったという方が更にふさわしいと述べる。神の国に生きる民は、終末に対する危機意識を持つべきなのである。

では、このたとえ話の中のいくつかの特徴的な言葉を取り上げてみたい。 **どうしようか (17)** 金持ちの困惑の言葉。同時にこの男の自問の言葉でもある。このつぶやき

1月

15日

研究資料

は、人間の思惑を描写する、ル力的表現の一つである。この思い巡らし自体は否定されてはいないし、人間にとって自然のことであろう。

**作物 (17)、蔵、穀物、食糧 (18)**

実は、これらの言葉の前には、日本語に訳していないあの言葉が隠されている。それは **わたしの (ギム)** という言葉である。わたしの作物、わたしの蔵、わたしの穀物、わたしの食糧…。ここには、人間のもつ利己主義の醜さが如実に表れている。神が人に与えられた隣人はもとより、これら収穫物を与えられた神ご自身をも視野にいれない人間の愚かな様を描き出している。神にかわって富、物質がこの農夫の崇拜の対象となっているのである。 **愚かな者よ (20)** 実際生活の中で神を無視している人たちのことであり、神を忘れた者たちのことである (詩14・1、ヨブ2・10)。

**今夜** 前節の農夫の言葉「長年分の」に対応する言葉。神がこの農夫に対して「愚かな者よ」(20)と叱責した真の意味はこの言葉の対比の中にある。食物をたくわえることにおいて、「たましい」のために「長年分の」備えができたとする考え方を、神は叱責されたのである。生命の安全を財産で保障できると思ひこんでいるすべての人は、現実を避けて生きているのであり、自分の行動によって自分自身を愚か者と証明しているのである。同時

にすべての聴衆に対して、現に起こりつつあることに目をさますようにという、イエスの劇的な警告とも解することができる。

**21** これまでの要約の箇所であると同時に22節以降へのつながりの言葉でもある。「あなたがたの宝のある所には、心もあるからである」(12・34)と、この箇所の結末部分にあるように、**神に対して富** とは、わたしたちの心も含めて、一切を神に明け渡し神の所有に帰することである。人の「生命」も「財産」も「持ち物」も、万物の所有権を神に帰するとき、信仰者は「神の前に富む」自由を得る。それは同時に「自分のために宝を積む」生き方、「思いわずらい」(22)から解放され、財の正しい用い方を知り、地上のすべての所有者が神であること、私たちの「生」もが神からの一時的所有であることを悟ることができるのである。

**参考図書** A・M・ハンター「イエスの譬えの意味」(新

教出版社) A.T.Robertson, Wood Pictures in the New Testament Volume II The Gospel According to Luke (Broadman) 他

1月

15日

## 礼拝メッセージ例

聖書

ルカ12・13〜21

タイトル

偽物？それとも本物？

暗唱聖句

たといたくさん物を持っていたても、人のいのちは、持ち物にはよらないのである。

ルカ12・15

目標

地上の富ではなく、神に喜ばれる生き方を追い求める。

### 導入

(飯田勝彦)

皆さんは、「偽物」って分かりますか？それは、当たり前ですが「本物ではない」ということです。本物には、偽物がつきものです。私たちの周りには、多くの偽物が出回っています。ブランド品のバッグや時計、偽物の免許証、絵画、バスポートなどもあります。何と言っても、偽金は偽物の代表的なものでしょう。

皆さんは、偽物に出会ったことがありますか。

もし、皆さんが高いお金で買った物が、偽物と分かったらどうでしょうか。「あゝ！、騙された！」と、幸せが一気に絶望になってしまうでしょう。

そのように、皆さんが「これさえあれば、人生は幸せだ！」

と思っているものが、偽物の幸せであつたら本当に悲しいですよ。

今、皆さんが求めている幸せや、今、幸せだと思っているその幸せは、本物の幸せでしょうか。それとも偽物でしょうか。

### 偽物の幸せ

ある時、イエス様の周りにいた群衆の一人が、「先生、わたしの兄弟に、遺産を分けてくれるようにおっしゃってください」とイエス様に訴えました。すると、イエス様は一つのお話をされました。「ある金持ちの畑が豊作でした。その金持ちは、今ある倉を壊し、もっと大きな倉を建ててそこにすべての食料をしまい込もうと考えました。そして、あとは仕事もせず、食べて飲んで、楽しく過ごそうとしたのです。しかし、神は彼に言われました。『愚かな者よ。あなたは今晚死ぬだろう。そうしたら、あなたがしまい込んだ物は、誰のものになるのか』。自分のために宝を積んで神に対して富まない者は、これと同じである」と言われたのです。

このお金持ちは、多くの財産を持ち、好きな物を食べたり飲んだりして楽しく過ごすことが一番の幸せだと思っていたのです。もし、皆さんが100億円を手にしたらどうでしょう。

1月

15日

## 礼拝メッセージ例

う。「こんなにお金を持っている自分は幸せだ。働かなくても一生遊んで暮らせる」と思うでしょうか？もし、そうならこのお金持ちと一緒にです。

イエス様は、この金持ちの姿は、「愚かであり、本当の幸せを持っている人ではない」と言われたのです。皆さんはどうですか。

### 本物の幸せ

お金がないよりは、あつた方が良いでしょう。いろいろな物を持っていないよりも、持っている方が良いでしょう。でも、お金や物が私たちを幸せにするものではありません。逆に、お金や物が私たちの心をダメにしてしまうことがあります。

このお金持ちは、たくさんのお金を持っていますがそれを感じていない人に分けようとする心がありませんでした。ただ、自分のためだけに貯えようとしたのです。偽物の幸せは、私たちを自己中心にさせてしまいます。

でも、本当の幸せとは、神様に対して富む人なのです。それは、「永遠に続く富を持っている人」と言えるでしょう。たとえ、人がうらやましがらうほどのお金や物を持っていたとしてもそれは永遠に続くものではありません。

では、どのようにしたら永遠に続く富を持ち、本当の幸せ

を手にすることができのでしょうか。

皆さんも知っているパウロは「わたしは宝を持っている」と言いました。その宝とは、永遠になくなることのないイエス様でした。彼はお金も物もありませんでしたが、このイエス様を心に頂いていることで本当に幸せだったのです。パウロはイエス様という幸せの源を、欲張りなお金持ちのように独りじめにしませんでした。多くの人たちにこの宝であるイエス様を分け与えて行つたのです。

神様が喜ばれる生き方、神様の前に富む生き方とは、まずイエス様を信じて心に迎えることです。そして、イエス様によつていつも神様に賛美と感謝をささげることです。もう一つは、イエス様とその愛を多くの人たちに分け与えて行くことです。

皆さんの周りに悩んでいる友だちや、助けを必要としている人がいませんか。

### まとめ

多くの人たちは、偽物の幸せを求めています。でも皆さんは、イエス様によつて本物の幸せを受け取り、神様に喜ばれる者とされましょう。

♪よろこびはわがこころに♪（ホーリネス子どもさんびか132）

# 聖書 ルカ15・1〜7 テーマ 神のもとに帰る

## 序論

(山田和幸)

〈九十九匹を野原に残しておいて、いなくなつた一匹を〉捜す羊飼いのたとえは有名です。絵画や黒人霊歌の題材にもなっています。ただ、われわれ日本人には非現実的な話に聞こえたりします。九十九匹はどうなつてしまふのだろうと考えるからでしょう。実は、野原には雇われ牧者が番をしているはずであつたことが省略されているのです。「死んでしまふかもしれない迷子の羊は、人任せにするわけにはいかない」という良い羊飼いがあるといふたといふです。

## 一、罪人を捜し出す主

人々がさげすみ、関わりを持つとしなかつた（取税人や罪人たち）と、イエスは積極的に関わりを持たれました。（パリサイ人や律法学者たち）は、教師であるはずのイエスが、汚れた者たちと関わることに不満で、つぶやいていました（2）。

「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である」

（マタイ9・12、マルコ2・17）とイエスが語られたのも同じような場面でした。

つぶやいている自称義人の人々に対して、ここでイエスは、たとえを通して自分が何者であるのか、神様は何を求めておられるのかを示されました。三つのたとえで語られた一五章全体に繰り返される鍵の言葉があります。「いなくなつた」、「なくした」（4、6、8、9、17「死ぬ」、24、32）、「見つける」（4、5、6、8、9、24、32）、「喜ぶ」、「喜び」（5、6、7、9、10、32）、「悔い改め」（7、10）です。つまり、イエスは失われた罪人を捜し出して、救いに導き入れることを使命としておられたのです。そして、神様は罪人が救われることを最も喜んで下さるのです。

## 二、羊飼いである主

失われた羊と羊飼いが何をたどっているかは、聞いている人々にはすぐにわかつたはずですが、旧約聖書では、羊飼いと羊は神と民の比喩<sup>ひゆ</sup>でした（詩23・1）。また、イエスは自分を良い羊飼いにたとえられました（ヨハネ10・11）。

良い羊飼いであるイエスは、残りの羊を人任せにして

1月

22日

聖書講解

でも失われた羊を捜します。羊を愛する故に、自分が手間をかけることを惜しみません。また、迷子の羊がさまようであろう危険な場所を、自らの命の危険も顧みずに捜し歩きます。

そのように、イエスは地上の生涯を全うし、十字架の身代わりを完成されました。

### 三、悔い改めを求める主

たとえのまとめに、イエスは〈悔い改め〉という言葉業を繰り返されました。羊が羊飼いの元に帰るように、神を離れた罪人が神の元に帰ることが悔い改めです。

罪人が救いに入るためには、この悔い改めがどうしても必要です。後のたとえに出てくる放蕩した弟息子<sup>ほうとう</sup>は、「本心に立ちかえつて」（17）、心からの悔い改めを告白しました（21）。

では、たとえを聞いていたパリサイ人や律法学者たちは悔い改める必要のない人々だったのでしょうか。〈悔改めを必要としない九十九人の正しい人〉と言われたイエスの言葉は、パリサイ人たちに対する皮肉だけなののでしょうか。後の二人の息子のたとえば、兄息子の反応待ちのように終わっていることからしても、イエスは自称

義人の彼らが「本心に立ちかえ」ることを望んでおられたのではないのでしょうか。イエスはパリサイ人たちにも呼びかけておられたのです。

悔い改める必要のない正しい人間などあり得ません。人は皆生まれながらの罪人です。外側の行いをどんなに整えても、心の中の妬みやつぶやきも罪です（マタイ5・21～48）。悔い改めて神様の赦しと救いをいただくことが必要です。

### 結論

私たちは、ある意味で迷子の羊のようです。神様の元から自分勝手に離れてしまい、命を失う危険にさらされています。

また、私たちはある意味でパリサイ人たちのようです。神様のことを知り神様に愛されたいと願いながら、神様が本当に望んでおられる生き方ができないでいます。

私たちは皆、自分の何が間違っていたかを悔い改めて、神様の元へ立ちかえらなければなりません。神様は何よりもそれを望み、待っていてくださいます。

## 研究資料

(宮澤清志)

この箇所は、ルカによる福音書の中でも重要な譬が並べられている箇所といえる。特に本章では3つの譬が並べられており、そのどれもが「なくしたものを見つけた喜び」というテーマにおいて語られている。ルカではこのように一対の短いたとえ話を語り、その後、クライマックス的なたとえ話を語るとい手法が取られることがしばしばある。それゆえ今回の聖書箇所を語る際には、これに続く2つのたとえ(15・32)まで目に通しておく必要がある。特に、これら3つの譬に共通して用いられている言葉、例えば「失う」(4、6、17、24、32、特に17節の「飢えて死のうとしている」は、「失う」という言葉が用いられている)、「見つける」(5、6、8、9、24、32)、「一緒に喜ぶ」(5、6、7、9、10、32)に注目してこの譬の三部作を黙想することをお薦めする。

さて、この「失われた羊」のたとえはマタイ18・12・14にも登場している。ハンターは、この失われた羊のたとえは、マタイとルカとではその聴衆を変えていると指摘する。ルカでは(おそらくこちらの方が原型に近い)、パリサイ人たちに語られた神の救いの喜びのたとえであったのに対

して、マタイではあやまちを犯す教会員に対する配慮を求める弟子たちへの勧めのたとえとして語られているというのである。

## テキスト

112 15章全体にかかる、このたとえ話の導入。ルカにおいてはよくあることではあるが、この導入によつて、本題であるたとえをどのように理解すべきかを示しているのである。 **近寄ってきた** 取税人や罪人たちを主語とした言葉。しかし、主はその取税人や罪人たちを「受け入れている」(RSV)のであり、「歓迎している」(NEB)のである。むしろ主のこの行動に注目したい。次節には **迎えて** という言葉が登場するが、イエスの側からすれば、取税人や罪人がイエスのもとに来ることを歓迎したのである。喜んで迎え入れたのである。しかも、 **一緒に食事をしている** この光景は、5・29・32にも登場しているので、そこをも参照していただきたい。一方、その光景を見て、パリサイ人や律法学者たちは **つぶやく** (ギディアゴンギューゾー)。この言葉は、通常の「つぶや(く)」よりも強調されて用いられている。この語は他にはルカ19・7にのみ用いられている言葉である。 **取税人** 当時は割当額以上を取る盗人として憎まれていた。 **罪人** 道徳的な法を破つ



1月

22日

研究資料

た人というだけにとどまらず、パリサイ人や律法学者たちが実践した儀式的洗浄規定を守らない、守れない人々をも含んだ言葉であろう。あるいは律法を知らない人々に對してもこの言葉が用いられた。

**4〜6** 羊の譬は旧約聖書においてはしばしば登場するが、そこでは選民であるイスラエルの民が羊にたとえられている（エゼキエル34・11〜12、イザヤ40・11、他）。そして、これらの箇所では、羊飼である神が失われた羊を探し出し、取り戻す存在として描かれている。更に、新約聖書ではイエスご自身が「わたしはよい羊飼である」（ヨハネ10・11）と語られる。同時にこの羊飼は、一匹の羊の名をも覚えていいるのである。

**4 野原**（ギ）エレモス この言葉は、他の聖書の訳では「荒野」（マタイ3・1、マルコ1・3）という意味で用いられている。**九十九匹** 残された九十九匹の羊はどのようなのか、という問いは、ここでは愚問である。それよりもこれら九十九匹を野原に残してでも失われた一匹を探しに行くという羊飼いの愛を語りたい。羊飼いにとつても、いなくなつた一匹を探しに出かけるといふことは、自らの命をかけた行為である。**捜し歩かないであろうか** ここには「当然探し歩くはずである」という含みをもつて

語られている。

**5** マタイの並行記事にはない言葉。さまよい歩いて疲れ果て、長い道のりを歩いて帰れなくなつていたのであろう。

**6 一緒に喜んでください** 見つけた本人だけが喜ぶのではなく、罪人たちやパリサイ人、取税人たちへの招きも含まれる。それほど喜びの大きさを示している。そして、ただの喜びではなく、祝宴を伴った喜びであり、失われた者が悔い改めて神に立ち返るなら、天上では御使いの大祝宴が催されているのである（7、24）。

**7** この節は、この譬の意味についてイエスご自身が聴衆に与えた解説である（10も同様。なお、19・10も同時に思い巡らしていただきたい。）**悔い改め**（ギ）メタノエオー（善に向けてであれ悪に向けてであれ）心を変更することを指す言葉である。**悔改めを必要としない九十九人の正しい人** 外側は律法に忠実でいる大半の人々のことである（ゴドー）。具体的には、自らを正しいとし、自称義人をきめこむパリサイ人たちに對する皮肉の込められた言葉であらう。

**参考図書** 1/15の参考図書を参照。



## 聖書

ルカ15・1〜7

## タイトル

迷子になっていませんか？

## 暗唱聖句

いなくなった一匹を見つけるまでは  
捜し歩かないであろうか。

ルカ15・4

## 目 標

神から離れた人間を追い求められる  
神の愛を知り、神のもとに帰る。

## 導入

(飯田勝彦)

皆さんは、迷子になったことがありますか。その時、どんな気持ちでしたか。迷子になって楽しい人はいないでしょう。淋しくて、不安で泣きそうになりませんでしたか。でも、お父さんやお母さんが捜してくれて、会うことができた時には、安心して、嬉しかったでしょう。

イエス様は、お父さんやお母さん以上に、皆さんを真剣に捜しておられます。

## イエス様は私たちの羊飼いです

イエス様の所に、罪人と言われている取税人たちが話を聞くために近寄って来ました。でも、それを見ていたパリサイ派や律法学者達は「イエスは、罪人たちと一緒

に食事をしている。何ということだ」と不平を言い出したのです。それを聞いたイエス様は不平を言っている人たちに、羊飼いの話をされました。「大切な羊を100匹持っていて、その内に1匹が迷子になったら、見つけ出すまで捜すでしょう。そして、見つかったなら近所の人達を呼んで一緒に喜ぶでしょう。そのように悔い改めて罪から自由にされた人がいたなら、天では大きな喜びがある」と言われたのです。ここでイエス様の言われた迷子になった羊とは、私たちのことです。羊は迷いやすく弱い動物で、一匹では生きて行けません。私たち人間も同じです。

そして、この羊飼いは神であるイエス様です。私たちが、イエス様を知らないか信じていないなら、私たちは迷子になっています。皆さんは、どうですか。もしも羊が羊飼いに捜し出されないでいたら死んでしまいます。

イエス様を信じている人には、イエス様が私たちの羊飼いとなつてくださいます。そして、いろいろな危険から守り、私たちを幸せな生活へ進ませて下さるのです。イエス様はあなたの羊飼いとなつていますか？

1月

22日

礼拝メッセージ例

## イエス様は私たちを愛される

皆さんは、大切な物を必死で捜したことがあるでしょう。この羊飼いは、「見つかったも見つからなくてもいいや、あと99匹もいるんだから」と思ったのでしょうか。そうではありません。羊飼いは99匹の羊を後にして、迷子になった1匹のために捜しまわったのです。それも簡単にあきらめたりはしません。見つけ出すまで必死に捜したのです。そのようにイエス様は、迷子になっっている私たちを捜されるのです。それは、イエス様が心の底から私たちを愛しておられるからです。愛の大きさはその人に使う時間と力によって知ることができます。

イエス様は、皆さんがイエス様のもとに帰ってくるまで捜し続けられます。あなたはこんなにもイエス様に愛されていることを知っていますか？

## イエス様は私たちを喜ばれる

羊飼いは迷子の羊を捜し出して、その羊をがっしりと抱えて肩に乗せました。迷子の羊に「怖かっただろう。大丈夫だからな。もう決してお前を放さないぞ」と言う思いがあったのでしょうか。

羊飼いは、羊が見つかった喜びを友人や近所の人たち

と共に分かち合ったのです。羊飼いがどんなに羊を愛していたか、また見つかったことを喜んだかが分かります。皆さんも、無くした大切な物が見つかった時には嬉しかったことでしょう。イエス様も私たちを捜し見つけ出した時には大いに喜ばれるのです。イエス様にとって私たちは、失いたくない喜びの存在なのです。

## まとめ

今、皆さんはイエス様から離れて迷子になっていませんか。「イエス様なんて信じない。僕には関係ない」と思っている人は、迷子になっっている証拠です。もしそうだとするならば、決して幸せに歩むことは出来ません。またそんな人をイエス様はどんなに悲しんでおられるのでしょうか。イエス様は皆さんを今も、見つけ出すまで捜しておられます。羊は羊飼いのもとにいるからこそ、安全に生活できます。私たちもイエス様のもとにいてこそ安心して暮らすこと出来るのです。

私たちを愛し喜んでくださるイエス様のもとに帰りましょう。

♪子どもの友は♪（ホーリネス子どもさんびか？）

# 聖書 創世記25・19〜34 テーマ 靈的祝福を求めて

## 序論

(高橋頼男)

ヤコブの生涯を三回にわたって学びます。

創世記の記述はアブラハムと共にヤコブの生涯に焦点を合わせており、二五章から五〇章までがヤコブ物語です。聖書がアブラハムの契約を引き継ぐ者として、いかにヤコブを大切に切り扱っているかがよくわかります。

その誕生について、父イサクは神に祈りました。すべてが神のご計画の中にありましたが、アブラハムと同様、信仰の試みを経験し、その子が与えられるために、父は切に祈り求めました。

約束があるからそれでよいのではなく、約束を信じ、その実現のために切に祈り求めることを主は求められるのです。

## 一、エサウとヤコブ (19〜28)

祈りが聞かれ、リベカの胎の中に子が宿りました。胎の中で二人の子が押し合ったので、母は不安を感じるほどでした。やがて双子の子が与えられるのですが、長子として生まれたエサウは毛深く、荒々しく、野を愛し、長じて巧みな狩猟者

となりました。一方、弟ヤコブは、兄のかかとをつかんで生まれましたが、穏やかな性格の中に激しいものを内に持っていました。彼は、天幕の中の生活を愛しました。二人は、性格と生活においてまさに対照的でした。「兄弟というものは、一人の人間が持つ全体的な性質を互いに分けあつて生まれてきます」(秋山さと子)と言われます。二人兄弟で、しかも双子であるエサウとヤコブは、その性格や気質を見事に分けて合つて生まれてきたと言えます。性格そのものに善い悪いはなく、また、どんな性格にも善い面と悪い面があります。ヤコブとエサウについては、その性格の違いによって判断されるべきではないでしょう。しかし、神の前に彼ら二人を決定的に分けた点は、彼らの霊的な祝福に対する感覚でした。

## 二、長子の特権を軽んじるエサウ (29〜34)

エサウは、ヤコブが求めるまま、一杯のあつものゝ長子の特権を簡単に取り替えてしまいました。これは、正式なやりとりではなく、エサウにとつてふざけてやったことで、一時のたわごとのやりとりであつたかもしれません。しかし、目先のこと、一時的なことにのみ関心を持ち、目に見えない霊的な永遠に関わることを軽んじるエサウの資質を見る思いです。疲れ飢えていたエサウは、ヤコブが与えたわけありの食

1月

29日

聖書講解

物で腹を満たすと、何事もなかったかのように満足して立ち去りました。しかし、彼は自分が何を約束し、何を失ったのかを全く自覚していませんでした。エサウが自分に与えられている霊的な祝福と特権について、いかに無自覚で鈍く、無頓着であったかということです。

神の選びのご計画の中で、すでに「兄は弟に仕える」(23、ローマ9・10・16)ことが定まっているのなら、なぜエサウのあり方が非難されるのかとの疑問があります。しかし、神の計画であるからと言って人間の責任が問われないということはありません。神の選びのご計画が歴史的にどのような実現していくのか、そこには神の絶妙な摂理の働きがあり、人間に委ねられた責任もその中に含まれているのです。計り難い神のご計画とみわざに対して、恐れをもって、信仰により誠実な応答することが求められているのです。

### 三、霊の祝福を求めるヤコブ (30・31)

ヤコブが兄エサウから長子の特権を奪おうとし、エサウが軽はずみにもそれを承知してしまったこと、また、母リベカとの策略によってそれを実行に移し、老いたイサクを騙してついに長子としての特権を受けたこと等々、わたしたちは、ヤコブの悪賢いやり方に怒りを感じます。そして、神様がな

ぜこのようなヤコブのやり方を黙っておられたのか、なぜこのようなヤコブという人間を選ばれたのか、不思議に思いますが。

しかし、反面、これほどまでして尊い神の祝福を自分のものにしたいと熱望したヤコブのなみなみならない熱心さに、むしろ教えられる思いがします。イエスさまは「天国は激しく襲われている。そして激しく襲う者たちがそれを奪い取っている」(マタイ11・12)と言われました。果たして、私たちは襲い・奪い取るほどの気迫をもって神の恵みに渴き、その祝福を慕い求めているでしょうか。

また、彼の行った様々な悪いやり方に関して、神はその一つ一つに報いられました。彼が身を寄せた他人から、今度はヤコブ自身が苦しめられ、神の懲らしめと取り扱いに身を委ねることとなるのです。その中で、彼は謙ることを覚え、悔い改め、変えられていくのです。

### 結論

クリスチャンとされた私たちが、神から与えられている霊的祝福を自覚し、尊び、さらに豊かな恵みを追い求める者となりましょう。

## 研究資料

(小平徳行)

イスラエル十二部族の祖であるヤコブの生涯がここから始まる。兄が弟に仕えるという神の選びが歴史的にどのように実現していくのかが記されている。ここでは特に長子の特権をめぐって両者の価値観の違いが対照的に描かれている。

## テキスト

**21 妻が子を産まなかった**ので アブラハムと同様にイサクも子どもが与えられるまでに時間がかかった(約20年間)。これは彼にとつても、アブラハムとの契約に対する神の真実を信じる信仰が試されることになった。神のご計画のために選ばれた人物が、母親の長い不妊の苦しみの後に生を与えられることがしばしばある。それは彼らが神の特別な器であることが明らかになるためである。

**22 押し合った**(ヘラツァツ)「砕く、粉々にする」という意味で使われることも多く、リベカの胎の中での子どもたちの闘争の激しさを表現している。**彼女は行って主に尋ねた** 胎の中にいる子どもが主により授かった

にもかかわらず、異常な状態に不安を感じ、主に尋ね求めた。恐れや不安をそのままの前に持ち出して尋ねることは大切である。主はそれに答えられた。

**23 兄は弟に仕えるであろう** 主に尋ねたリベカに、主のご計画が告げられることになった。弟であるヤコブが契約の民となることがここに明らかにされた。それはヤコブのわざにはならず、神の選びによるものであることを示している(ローマ9・10く13参照)。リベカはこの告知を忘れることはなかった。**あなたの腹から別れて出る** 新共同訳では「あなたの腹の内で分かれ争っている」となっている。胎内での押し合い(22)は二つの国民が互いに他への優位を占めようとする争いの始まりである。

**24く26** 双子の誕生の様子は、23節の預言の成就を目に見えて予感させるものであった。**赤くて**(ヘアドモーニ)これはエサウの髪の毛か皮膚の色かははっきりしないが、明らかにエサウの別名エドム(30)に影響している。

**毛ごろも**(ヘアツデレス・セーアール)のセーアールは「毛深い」の意でエドムの別名「セイル」と関連する。**それで名をエサウと名づけた** 「エサウ」にも「粗い、毛深い」の意味があり、こちらが名前に使われることに

1月

29日

研究資料

なった。それで名をヤコブと名づけた。「かかと」はヘブル語でアーケーブ。ここからヤコブと名づけられた。この言葉はエサウによって「おしのける」(27・36)の意味にとられている。

27 エサウは巧みな狩獵者となり…ヤコブは穏やかな人で、天幕に住んでいた 二人は性格においても生活においても対照的な存在であった。

28 リベカはヤコブを愛した このことの背後に、出産前に聞いた神のことばが関係していたことは十分に考えられる。しかし、偏愛となってしまったのはリベカの限界であった。

30 その赤いものをわたしに食べさせてくれ 「赤いもの」はヘブル語で「アドム」。ここからエサウがエドムと呼ばれることになる。「食べさせてくれ」は「飲みこませて」という意味であり、この時の飢え渴きの激しさが表されている。

31 まず…売りなさい ヤコブは長子の特権を自分のものにすることを絶えず考えていたので、エサウの一瞬の弱みに付け込んでそれを要求した。長子の特権 長子はすべて神の前に聖別されるべき存在であった(出エジブ

ト13・2)。長子の特権は一般的には、財産の相続において二倍の分け前を得る権利であるが(申命記21・17)、ここではアブラハムの契約に由来するすべての祝福を意味しており(28・3、4)霊的なものである。実際、これを失ったエサウは物質的には豊かであった(33・9)。

33 まずわたしに誓いなさい ヤコブは冷静に、確実に自分のものにするためにエサウに誓わせた。この誓いにより長子の特権は、エサウから完全に手放された。

34 このようにしてエサウは長子の特権を軽んじた エサウは目先のこと、一時的なことにのみ関心を持ち、目に見えない霊的な、永遠に関わる特権を軽んじた。彼は飲み食いして立ち去ったが、その時に、彼は自分が何を失ったのかを自覚していない。これがエサウの霊的なことに関する鈍さを示している。このことゆえにエサウは「俗悪な者」(ヘブル12・16)と言われることになった。こうしてエサウのあり方が非難されているように、神の選びだからといって人間の責任が問われないわけではない。

参考図書 舟喜信「創世記」『新聖書注解・旧約I』(いのちのことば社)、Wenham, G. J. (Word) 他

1月

29日

## 礼拝メッセージ例

聖書

創世記25・19〜34

タイトル

祝福をください！

暗唱聖句

一杯の食のために長子の権利を売ったエサウのように、不品行な俗悪な者にならないようにしなさい。

ヘブル12・16

目標

神からの祝福を大切にして、追求める。

### 導入

(飯田勝彦)

皆さんは、大切なものを失ったことがありますか。例えばどんなのですか。財布、ゲームソフト、靴、ノートなど、まだあるかも知れません。中には、大切な友だちと喧嘩別れをしてしまった人もいるかも知れません。そんな時、「もつと大事にしておけば良かった」とか「もつと優しくしておけば良かった」と後悔してしまいます。

今朝の箇所も大切なものを失ってしまった人が登場します。

### 双子の兄弟エサウとヤコブ

「信仰の父」と言われるアブラハムの息子は、イサクで

す。そのイサクは、リベカを奥さんに迎えました。アブラハムと一緒になかなか子どもが与えられませんでした。イサクはそのため主に祈りました。すると、イサクとリベカの間に子どもが与えられたのです。しかも、双子でした。イサクは二人をエサウとヤコブと名付けたのです。

皆さんはお笑いタレントの「タッチ」を知っているでしょう。彼らも双子です。彼らはよく似ています。でも、このエサウとヤコブは、まったく似ていませんでした。エサウは、毛深く狩りが上手で野原を走り回る人でした。ヤコブは肌がきれいでおとなしく、天幕にすることが多い人でした。

### 神の祝福を失ったエサウ

エサウは、「長子の権利」を持つていました。

これは、家庭で最初に生まれた男の子に与えられるものでした。簡単にいうと長男です。「長子の権利」を持つているエサウは、イサクの財産をもらうとき、他の兄弟よりも特別に二倍のものを受けることができたのです。そして、それだけではなく、おじいちゃんであるアブラハムに与えられた神様の祝福も受ける権利が与えられていたのです。これは、とても大切な権利で、恵みの権利でした。でもエ



1月

29日

## 礼拝メッセージ例

サウは、その権利を失ってしまうことになるのです。どうしてでしょうか。

ある時、ヤコブが美味しいシチューを作っているところに、ちょうどエサウが狩りから帰ってきました。野原を走り回って来たのでお腹はペコペコです。シチューの美味しそうなおいにおいに引かれ、いてもたってもいられなくなり、「そのシチューを食べさせてくれ」とヤコブに頼みました。すると、ヤコブは「食べさせるかわりに、兄さんの長子の権利をください」と言ったのです。

皆さんならどうしますか。神様の祝福を与えられる大切な長子の権利です。どんなことがあっても渡すはずはないでしょう。でも、エサウは「長子の権利などわたしに何になろう」と言って、その権利を簡単にヤコブに与えてしまったのです。エサウは、長子の権利の大切さをよく知らないばかりか、目先の欲のために大切なものを軽んじたのです。イエス様を信じる者は、神様の子であり、神様の祝福を受ける者にされています。ですから、エサウのように神様の祝福を失うことがないようにしましょう。

### 神の祝福を求めたヤコブ

兄のエサウは、「長子の権利」について無関心であり、

大切にしませんでした。でも、弟のヤコブは、「長子の権利」の重みを知っていただけではなく、「何とか長子の権利が自分のものにならないだろうか」と切にその権利を求めているのです。ヤコブは、父親の財産はもちろん、いやそれ以上に神様の祝福を真剣に求めているのです。

### まとめ

今、皆さんにはイエス様を信じる信仰が与えられていますか。信仰によつて私たちは、神の子にされます。その時、父なる神様の祝福を受ける権利が与えられるのです。でも、神の子としての権利を無視して神に背を向け、目先の楽しいことなどに心を奪われてしまったらどうでしょう。それは、神様を悲しませることになるばかりか、神様の祝福を受けられなくなってしまうのです。私たちはそうではなく、ヤコブのように神様の祝福をいつも真剣に追い求めて行く者にされましょう。先日「求めよ、捜せ、門をたたけ」のみ言葉を聞いたように、神様は真剣に求める人の思いと祈りに必ず応えてくださいます。「祝福をください！」と願いつつ歩みましょう。

♪ けさもわたしの ♪ (ホーリネス子どもさんびか5)

# 聖書 創世記28・10〜22 テーマ 神がこの所に

## 序論

(高橋頼男)

ヤコブは、母リベカと共謀して老いた父イサクを偽り、ついに兄エサウから長子の特権を奪い取ってしまいました。だまされたと知った父イサクは怒りにふるえ、エサウは泣き叫びました(27・34)。しかし、一度ヤコブに授けられた祝福はもはや変わることなく、どうすることもできません。この仕打ちに、エサウはヤコブを深く憎み、殺そうと決心しました。それを知った母リベカは、ひそかにヤコブを遠いパダンアラムの母の郷里に逃れさせることにしました。

## 一、孤独な旅(1〜5、10〜11)

住み慣れた家を追われるようにして出発したヤコブの初めての旅は、まことに切なくわびしいものでした。さまざまに思いにかきまわられるように、兄に対する恐れ、善良な父をだました悲しみ、愛してくれる母への懐かしさが、つぎつぎ思い出されて込み上げてきます。さすがに、なによりも、これまで自分のやってきた悪事を思わずにはいられませんでした。「自分は、何ということをしてきたのだろう...」。ヤコブ

の心に初めて自分のしてきたことに対する悔いが起こりました。また、「これから、どうなるのだろう」、急に、将来への不安が襲ってきました。過去の悔い、将来への不安…。そして、今、自分は全くの一人ぼっちであることを思い知らされるのです。

忸怩たる思いで、ひたすら寂しく心細く、石を枕に寝ることになりました。

## 二、ヤコブの神との出会い(12〜17)

悲しみと不安を胸に抱いて眠りに落ちたヤコブは、その夜、一つの夢を見ました。不思議な夢でした。一つの梯子が地から天にまでとどいて立っていました。その上を神の御使いたちが上り下りしています。

その光景の中から、ヤコブ自身に語りかける主のみことばが聞こえてきました。

「わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、主である」、この声を聞いた瞬間、ヤコブはこれまで伝え聞いていた祖父アブラハムを祝福した神、父イサクに現れた神を思い起こしました。その神が、今、ヤコブにも現れて下さったのです。主は、ひとりひとりに呼びかけ、ご自身を親しく現し、語りかけてくださるお方です。

2月

5日

聖書講解

「ヤコブよ、お前は恐れ悲しみつつ、たったひとりで不安な旅を続けている。しかし、お前は孤独ではない。私はお前と共にいる。お前がどこに行くにも、共にいて、お前を守る。わたしは、決してお前を見捨てはしない」。驚くべきことば、慰めのことばでした。

これはヤコブにとって大きな転換点でした。

わたしは知らなかった。そうだ、わたしは一人ではなかったのだ。こんなわびしい一人ぼっちの愚かな自分に、主はその御目をそそいでくださり、共にいて下さったのだ。

ヤコブの霊の目が開かれたのです。今まで恵まれた環境の中で育ち、自分を愛し守ってくれる人々の中で、自由に、思いのまま生きてきたヤコブでした。兄を出し抜いて長子の特権さえ手に入れたのです。しかし今、追われるよう故郷を後にして一人、孤独な旅の中で初めて知った自分の本当の罪深い姿。しかも、先祖の神が、このような自分に心を留めてくださり、共にいてくださるというのです。「ヤコブの神との出会い」こそ、新しいヤコブの誕生の瞬間でした。

パスカルは、多くの遍歴の後、ついに自分の神を見出し『アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神』、哲学者や、学者の神ではない。確かだ、確かだ、心のふれあい、よろこ

び、平和、イエス・キリストの神」と、歓喜の叫びを表現しました。(パンセ<sup>737</sup>・456 田辺 保訳)

### 三、ベテルの経験(18〜22)

人生は、人間の目から見ると、偶然や不思議に満ちています。ヤコブは、追われて苦しい旅中に野宿をするという状況の中で、神がわたしと共にいてくださるという、驚くべき恵みの発見をしたのでした。「神が共におられる」ということ、これこそ、すべて悲しむ人、孤独な人、自分の弱さを知らされる人、罪を思い出して自責の思いに悩む人にとって、本当の救いです。

ヤコブは、今や「わたしの神」となった主を恐れかしこみ、その体験の場所に枕の石を立てて油を注ぎ、天の門と呼び、ベテル(神の家)と名づけました。「神われらと共にいます」は、私たちの救いそのものです。そして、主イエスこそ、私たちのインマヌエル(マタイ1・23)です。さまざま状況や出来事の中で罪深い自分を知らされ、そこでキリストの救いを知ることこそ、わたしのベテルの経験です。

### 結論

こんな所にと思われ場所に、共におられる神に目を向けて生きましよう。

## 研究資料

(小平徳行)

ヤコブは父イサクを欺いてエサウの祝福を自らのものとした(27章)。そのため母リベカはエサウに命を狙われたヤコブを逃がすために、妻をめとるためという口実でハランへと行かせた。ヤコブはその孤独な放浪の旅路において神に出会っているのである。これは彼にとって最初の個人的な神との出会いの経験であった。

## テキスト

**10 ハラン** ベエルシバからベテルを通り、ハランまでの旅路は八百八十キロ以上になる。

**11 一つの所に着いた時** 「着いた」(ハパーガ)は「遭遇した」「出会った」という意味で、偶然の意味合いの強い言葉。人間的には偶然と思えることも神の側からは必然である。

**12** ここには「見よ」と訳せる言葉が、二回使われている。つまり、夢の中で見た幻は驚くべきものであった。**一つのはしがが地の上に立っていて はしが**(ハスーラム)は語源的には「積み上げる」(ハサーラル)から来ていることから、高速道路のランプのような傾斜した道か、階段の

ようなものともとれる。ここで重要なことは天と地を結ぶものであるということ。新改訳では「地に向けて」、新共同訳では「地に向かつて」。これは地からのものではなく、天からのもの、つまり、人からの接近ではなく、神からの接近であることが強調されている。**神の使たちがそれを上り下りしているのを見た** 御使いは救いを受け継ぐ人々に奉仕する者であるから(ヘブル1・14)、この光景は神がヤコブを保護されることの約束(15)の保証を暗示するものである(詩篇34・7参照)。またこのはしがは神と人とを結ぶ道であるキリストの予表でもある(ヨハネ1・51参照)。

**13 主は彼のそばに立って言われた** 主の臨在を強調している。主の臨在への気づきは、主の御声を聞くことから生まれる。ここでヤコブが契約の祝福の継承者であることが確認される。

**14 15** ここには子孫の繁栄、子孫による地上のすべての民族の祝福についての約束がなされている。これはアブラハムやイサクにも約束されていた事である。しかし、それに加えて、主がヤコブと共におられること、主は約束を成し遂げるまで決して見捨てないことが示されている。実際

2月

5日

研究資料

にその後ヤコブの歩んだ道のりは険しいものであり、約束の成就に至るために、主の臨在は不可欠であった。主が共におられることこそが契約の根本であると言える。

**16 まことに主がこの所におられるのに、わたしは知らなかった** 家を離れ、今まで親しんできた礼拝の場所を離れ、非常に孤独感を感じているときに、この予期しない所で主の臨在を知った驚きが表れている。利己的な罪深い自らをも顧みてくださり、共にいると約束をしてくださった主の恵み深さへの驚きでもあろう。

**17 神の家** 神の臨在の場所。 天の門 神の臨在に触れることが許された場所を示す表現

**18 石を取り、それを立てて柱とし、その頂に油を注いで** 石そのものを神格化したのではなく、神がヤコブに現れ、アブラハム、イサクへの約束を引き継がせてくださったことを証する記念碑として。 **油を注いで** 契約あるいは誓いが神聖であり、冒すことのできないものであることを表す象徴的な行為。

**19 その所の名をベテルと名づけた** アブラハムはベテルで二度、自分で祭壇を築き、礼拝している（12・8、13・3）。アブラハムの時代の記事に「ベテル」を用いてい

るのは、後に名づけられた地名で説明しているため。ヤコブはここがかつてアブラハムが祭壇を築いて礼拝した場所であることを知らなかったと考えられる。このような場所に導いて、同じように神の名を呼ばせることに神の摂理を見る。

**21 安らかに父の家に帰らせてくださるなら、主をわたしの神といたしましょう** 新改訳第三版では「無事に父の家に帰らせてくださり、こうして主が私の神となられるなら」（新共同訳もほぼ同じ）となっている。いずれにしても22節のヤコブの誓いを果たすための条件のような形で書かれている。しかし、これは疑いを含んだ言葉ではなく、神の約束に基づいての誓願と取るべきであろう。新改訳第二版は、「私が無事に父の家に帰ることができ、主が私の神となつてくださるので」と訳しており、ヤコブが約束の実現を確信し先取りしたようになっている。

**22 十分の一** 所有物の聖別である。ヤコブの場合は、律法によるものでなく、自由意志によるささげものである。アブラハムにならったのかもしれない（14・20）。

参考図書 1月29日分と同じ。

2月

5日

## 礼拝メッセージ例

聖書 創世記28・10〜22

タイトル 神様といつもいっしょ！

暗唱聖句 まことに主がこの所におられるのに、

わたしは知らなかった。

創世記28・16

目標 共におられる神に目を向けて生きる。

### 導入

(和田治)

「ただいまー！あれ？お母さんは買物かな？」英樹君はさっそくコタツに入ってテレビをつけて、じゅっと見ていました。1時間ほどたつて、テレビを消すと、あらら、お母さんもコタツで新聞を読んでいます。「なんだ。いつから居たの？」「もうだいぶ前に帰って来てたよ」だつて。英樹君の目はテレビの画面に釘付けで、側にいるお母さんが見えなかったんだね。今日は、「ああ、神様、一緒にいてくださったんですね！」って、心の目が開かれ、神様に目を向けるようになった人のお話ですよ！その人の名はヤコブ。そう、先週も登場しましたね。エサウの弟のヤコブです。

### ひとりぼっちになったヤコブ

お兄さんのエサウからうまく長子の特権を手に入れたヤコ

ブ。今度は、お父さんのイサクがエサウに祝福の祈りをしようとしたとき、お母さんと力を合わせて、エサウのふりをし、お父さんをだまして祝福を奪ってしまいました。かんかに怒ったエサウ。「おやじも長いことはない。そうになったら見てろ、ヤコブのやつ、必ず殺してやるからなっ！」そうなつてはたまりません。ヤコブは遠く離れた町、お母さんの故郷に逃げることになったのです。ハランというその町は、これまで住んでいたベエルシバから九百キロ近く、日本でいうと東京から本州の西の端の下関くらい離れているんです！初めて一人で家を離れ、ひたすら歩くヤコブ。もう、心細くて寂しくてたまりません。気がつくと思知らぬルズという町に来ていました。誰も知っている人がいない所。もう夜です。疲れ果てたヤコブは野原で横になるしかありませんでした。

「お母さん……！」涙がほほをつたつて、石の枕(まくら)をぬらします。しかも、「エサウ兄さんの使いが追いかけて来たらどうしよう！」そう思うとますます怖くて、悲しくてたまらなくなるのでした。なんて惨めな夜でしょう……。

### 主は共にあられた！

やがてヤコブは眠りにつきました。すると、夢の中で一つのはしが見えたのです。それは、天から地へとくだるなが

2月

5日

礼拝メッセージ例

「はいしごとでした。天使がそのはしごを上り下りしています。そしてなんと、その夢の中で主の声がはつきりと聞こえてきたのです。「ヤコブよ、わたしはアブラハムの神、イサクの神である主だ。お前は恐れ悲しみながら、たったひとりできびしく不安な旅を続けている。だが、お前はひとりぼっちではない。私がいつもお前と共にいる。お前がどこに行くにも、いっしょにいて、お前を守る。わたしは、決してお前を見捨てない!」。なんとという慰めでしょう!」

「本当に主がここにおられるのに、私は知らなかった!」。今、ヤコブには分ったのです。「そうだ、私は一人じゃなかったんだ。こんな私さえ主はその御目をそいでいてくださった、共にいて下さったんだ!」ヤコブの心の目が開かれ、今まで見えなかった主に目を向けることができるようになったのです。彼の心はこれまでにない本当の喜び、平安、希望に満ち溢(あふ)れてくるのでした。

**共におられる主に目を向けよう!**

夢から覚めたとき、ヤコブは「な〜んだ、夢だったのか。やっぱわたしはひとりぼっちなんだ。ああ、これからどうしたらいいだろうか…」とは思いませんでした。共におられる主の語りかけをがっちり受け止めて、心の目を主に向けま

した。あなたは、「神様の声なんか聞こえないよ」って思いませんか? いいえ、たった今、聞こえているじゃありませんか! そう、この聖書のお言葉こそ、主なる神様の声、あなたのすぐそばにおられて語りかけておられる御声なんです! その御声に従って、今、神様に心の目を向けましょう…。

ヤコブの夢の中で天と地をつなぐはしごがありましたね。それは、やがて天から降って来てくださるイエス様をあらかじめ表していたのです。イエス様は、十字架で命を投げ出して、私たちの罪を負ってくださいました。私たちが天の御国に登って行ける「はしご」になってくださったのです。イエス様を信じる人の全ての罪は赦(ゆる)され、そして、絶対に一人ぼっちになんかありません。

**まとめ**

いつも一緒にいてくださる神様に目を向けて生きるなら、何も怖いものではありません。悲しみは癒(い)され、罪は赦(ゆる)され、心は愛で満たされます。良かったね、いつも神様が一緒にハレルヤ!

♪神様といつもいっしょ♪

(インマヌエル教会学校さんびか?)



# 聖書 創世記32・22〜32 テーマ 砕かれて勝利する

序論

(高橋頼男)

ヤコブは、バダンアラムの叔父ラバンのもとに身を寄せ、そこで20年の歳月を費やしました(29章〜31章)。彼は、ラバンの娘のレアとラケルをめぐり、そのはしめの子たちを含む11人の子を得ました。大変な苦勞をしましたが、神の祝福をいただいて、家畜やしもべたちも大いに増え、その地で財を成す者となりました。叔父ラバンは成功したヤコブをねたみ、もはや以前のように好意を示さなくなりました。また、どんなに成功し生活が安定しても、決して異郷の地に安住しないアブラハムの精神がヤコブのうちにも生きていました。そうしたある日、ベテルで語りかけられた主なる神が現れ「あなたの先祖の国へ帰り…なさい。わたしはあなたと共にいるであろう」(31・3)と語られたのです。ついに彼はその地を出て、再び故郷に向かうことになりました。

## 一、故郷に帰る(32・3〜21)

ただひとり、孤独と不安とを胸にいだいて故郷を逃れた時とくらべて、今回の帰郷の旅は何という大きな違いでしょう。

ヤコブは家族、一族を引き連れ、多くの財産を得て、意気揚々としていたかもしれません。しかし、だんだん故郷が近づくにつれて彼の心は暗く重くなりました。20年前、仲違いして別れ、憎しみと殺意さえ抱いたという兄エサウが、果たして彼を受け入れてくれるでしょうか。ヤコブは兄との問題を引き延ばしにしましたが、しかし、今、このような形で決着をつける時がやって来たのです。赦(ゆる)されていない罪、解決されていない問題は、必ずこのような時を迎えるのです。

一行がヤボク川の渡し場にさしかかった時、彼の心はついに不安でいっぱいになりました。彼は、兄エサウのもとに使者と贈り物を先に送り、周到な準備をしましたが、それでも不安と恐れはつのるばかりです。

## 二、ヤボクの経験(22〜32)

その夜、ヤコブは、ひとり川のほとりに眠られぬ夜を明かしました。その夜、一人の見知らぬ人が現れ、ヤコブの前に立ちはだかったのです。そして、一晩中ヤコブと組み打ちをしました。ヤコブはその方が、見知らぬ人の姿を取られた神であるとわかりました(32・30)。不安と恐れの中、ヤコブは全身の力を振り絞って「神と四つに組んだ格闘」(激しい折り信仰による闘い)をしました。そして、つい

2月

12日

聖書講解

に神と人に勝ったのです(28)。ここには最早、かつてのひ弱で自己本位のヤコブはいません。異国での長く苦しい労働と困難な人間関係を経て、忍耐強い逞しい人間になったヤコブがいます。見知らぬ人にしがみつき、一晩中「わたしを祝福してくださいなら、あなたを去らせません」と叫んで、大胆に神に肉迫していくのです。ついにヤコブは、ものの関節をはずされ、足腰が立たなくなりました。

「神との激しい格闘において、最後は神が勝利されました。そして、そこに祝福が与えられます。信仰の勝利、祈りの勝利とは、自分が神を屈服させることなく、逆に、神に屈服させられることなのです。神を相手にして『勝つ』ことは、『負ける』ことなのです。このように、神に肉迫し、神に敗れ、神に克服されたとき、人は真の勝利を得、祝福を受けるのです」(『私たちの創世記』今橋朗著)。悪賢いヤコブ、この世に長けたヤコブ、肉の実力者ヤコブは、神の前に完全に打ちのめされ敗れ去りました。

「わたしはキリストと共に十字架につけられた。生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである」(ガラテヤ2・19、20)。

### 三、新しくされたヤコブ(27、28)

その人は、〈あなたの名はなんと言いますか〉と尋ねました。彼は〈ヤコブです〉と答えましたが、改めて自分が「ヤコブ」(押し退ける者、狡賢く人を欺く者)であることを思い起こさせました。神はそのヤコブに〈あなたはもはや名をヤコブと言わず、イスラエルと言いなさい〉と、新しい名を与えられました。名が新しくなるということは、人の本質が全く新しくされたことを意味しています。それは「押しのける者」から、「神の皇太子」にまで引き上げられ、新しくされたヤコブのことです。先の旅で、「わたしは共にいる」と呼びかけられた神は、今や帰りの旅で、ヤコブを全くとらえ、変化させ、新しくしてくださいました。彼は再び経験した生ける神との出会いの場を、〈ベニエル〉(神の顔)と名付けました。その時、ヤボク川のほとりに朝日が昇りました。昨日までのヤコブの心の不安と恐れは消え、神と共なる雄々しい信仰の歩みが始まりました。

### 結論

古い自分が打ち砕かれ、キリストにある勝利に与って、新しい自分とされましよう。

## 研究資料

(小平徳行)

ヤコブはラバンのもとでの長い苦闘から解放されたが、約束の地に帰るためにはエサウとの出会いを避けることはできない。ベテルやマハナウムでの経験にも関わらず、彼はエサウへの恐れを打ち消すことはできなかった。ヤコブ自身の性質が取り扱われる必要があった。

## テキスト

**22 ヤボク** ヨルダン川東側の支流。 **渡し** 浅瀬で他の領土に出入りするための門の役割をし、軍事戦略的にも重要な場所。ヤコブにとつてもここは大きな覚悟を必要とする門であった。ヤコブとその家族はどのようにヤボクの渡しを渡ったのか、いくつかの可能性が考えられる。22〜24節にかけて出来事が順序通り書かれているとすると、ヤコブは一度家族と渡つて、また引き返して自分一人残ったのか、渡った後そこからさらに家族を行かせて、そこにヤコブ一人残ったとすることもできる。しかし、22節を全体の要約、そしてそれ以下を詳細の記述と見れば、先に家族だけ渡らせて、ヤコブが残つて格闘し、その後ヤコブも渡つたと取ることができる。 **夜** 夜の渡河は危険であったが、

少しでも早くエサウを迎える準備を整えておこうとしたのか、渡河の途中でエサウに襲われるのを恐れたのかもしれない。

**24 ヤコブはひとりあとに残った** 人生の重大な危機を控え、解消できない不安ゆえに切実に祈りの必要を感じ、神の前にひとりになったかっただろう。 **ひとりの人が、夜明けまで彼と組打ちした** ただの人ではなく神の御使いであった(ホセア12・4参照)。「人」と言われているのは、ヤコブにとつてそう理解されたからである。この闘いは神の御使いが主導権を取つてなされたものである。ヤコブの祈り(9〜12)への答えであろう。 **組打ち** 精神と肉体を含んだ闘い。肉体の激しい努力を伴う祈りの霊的な闘いであった。これは神の恵みを妨げる一切のものをヤコブから取り除こうとする神のご熱心の表れである。

**25 勝てないのを見て** 肉の努力をやめようとしなかったのを見て。神のお取り扱いに対するヤコブの抵抗である。 **ものつがい** **が…はずれた** 神のみわざにあずかるためには生来の肉の力ではなく、神に与えられる力により頼む必要がある、神に打たれる必要があった。

**26 わたしを祝福してくださいなら、あなたを去らせ**

2月

12日

研究資料

**ません** 抵抗していたヤコブは打たれてしがみつこうになった。自己防衛の術を捨て神にすがりつくことは、祝福を受けるのにふさわしい態度である。

**27 あなたの名は** ヘブル人にとって名は実質を表す。ゆえに名を問われることは、自らが何者であるかの告白を求められること。**ヤコブです** これまでの彼の「押しのける者」としてのありかたの告白であり、自分自身を投げ出した姿である。

**28 イスラエル** 文字通りには「神は争われる」の意で「神と人との、力を争って勝ったから」とは厳密には一致しない。ここには語源の説明によく見られる言葉の遊びが含まれている。この改名は、称賛のみならず、これ自体が祝福を意味し、この名が神と人（エサウやラバン）とに力を争って勝った事を思い起こさせ、勝利への希望を抱かせるものである。特に、これからなされるエサウとの出会いが守られることの保証でもあった。

**29** ここで名について答えないのは、名を示すことが啓示そのものであり、神の主権に属するゆえ。名を教えないというよりは、祝福することによって教えているともいえる。

**30 ペニエル** 「神の御顔」の意。**わたしは顔と顔を合わ**

**せて神を見たが、なお生きている** 旧約の人々は一般に神を見れば死ぬとの恐れを持っていた（士師記6・22、13・22参照）。神を見た者は死ぬはずなのに死ななかったことの驚きと、格闘を通して得た祝福のゆえの賛美が込められている。エサウと顔を合わせ、彼に受け入れられた時、ヤコブは、神の御顔を見て、なお生かされた経験と重なり合わせている（33・10）。

**31 日は彼の上にのぼった** ヤコブにとって新しい出発のための希望の光、信仰の喜びであった。**歩くのが不自由** この身体的状態はヤコブの霊的状态を象徴している。彼は主にしがみつかりしか持ち合わせない者とされた。これは神に取り扱われ、砕かれ、主の臨在を知った者の勝利に他ならない。「わたしが弱い時にこそ、わたしは強い」（Ⅱコリント12・10）。ヤコブは当初、贈り物でエサウをなだめてから顔を合わせようと考えていたが（20）、この経験の後、彼は自ら先頭に立つてエサウと出会ったのである。**参考図書** 1月29日分に加えてF・B・マイヤー『神と格闘した人』（いのちのことば社）

2月

12日

## 礼拝メッセージ例

聖書 創世記 32・22～32

タイトル イエス様がわたしのうちに！

暗唱聖句 生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。

ガラテヤ 2・20

目標 自我が碎かれ、キリストにある勝利をもつて生きる。

### 導入

(和田治)

みんな、「ジガ」っていう言葉を聞いたことがありますか？  
ちようちよや蛾の種類じゃありません！ちよつと漢字を見てみよう。自分の「自」と、自分という意味の「我」で「自我」。「エゴ」と言います。これは、「おれが一番！」「私の思い通りでなきゃいや！」っていう、他人を押しつける性質のことですね。「押しのける者」。あれ？どこかで聞いたことない？そうです、先週も学んだヤコブの名前の意味が「押しのける者」でしたよね。ヤコブは自我まる出しで生きていた人だったんです、名前の通りに！あなたはどうか？

ところが、ある出来事を通して、ヤコブの自我を神様が碎い

てくださったんです。生まれ変わったように新しくしてくださいました。いったい何があったのかな？

### エサウを恐れるヤコブ

エサウから逃れてラバンおじさんの所で暮らすようになってなんと20年。二人の奥さんと11人の子どもたちが与えられたヤコブに、神様は「あなたの国へ帰りなさい」とおっしゃいました。

なつかしい故郷：でも、そこではヤコブを「いつか必ず殺してやる！」と激しく怒り、恨んでいたエサウ兄さんが待ち構えています。近づけば近づくほど怖くてたまらなくなってきました。よくく作戦を練って、エサウの怒りをなだめることができるようにせいっぱいの準備をしました。

### 自分の力でがんばろうとするヤコブ

それでもどうしても恐れがおさまりません。家族や持ち物をヤボク川の向こう岸まで渡らせ、ヤコブ自身はひとり残りしました。神様と一対一で、とことん祈らずにはおれなかったのです！すると、一人の人が現れ、ヤコブと組討ちを始めました。なかなか決着が付きません。「負けるものか！」つと、歯を食いしばって相手をやっつけようとするヤコブ…。実は、ヤコブと組討ちしているこの人は、神様の御使いだっただけです。そして、どうしても負けまいとがんばるヤコブの姿は、「自分が一番だ。

2月

12日

礼拝メッセージ例

自分の思いどおりでなきゃだめなんだ。自分のがんばりで乗り越えるんだ」というヤコブの自我の現われたつたのですね。

### 砕かれたヤコブ

夜明けまで組討ちは続きました。とうとうその人はヤコブの太ももの付け根を「ぼしっ」と打ちました。その関節が外れたのです。「痛い！」と叫んだヤコブは、片ひざをついて崩れるように倒れました。「夜が明けるからわたしを去らせてください」。そう言う御使いに、ヤコブはすがり付いて泣きながらこう訴えたのです。「わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません!」。これは、「私には何をする力もありません。ただ神様にすがるだけです。どうか憐れんでください!」って、神様だけに頼る砕かれた心の現われでした。御使いから名前を聞かれた彼は「ヤコブです」と答えながら、これまでの自分がいかにずるがしこく、人を押しのける、自我まる出しの人間だったかを改めて思い起こしたでしょう。でも、新しい名前をいただきました。その名は「イスラエル」。神の皇太子という意味のすばらしい名前です。そうです! 彼はこの組打ちを通して、自我を砕いていたのです。

### イエス様がわたしのうちに

今日のお話を聞いて、「ああ、ぼくも、わたしも、押しのけ

る者ヤコブのような自我があるなあ」って思う人はいませんか? いざとなったら人を押しのけて、自分のことばかり考えてしまいう心、イエス様に似ていない、わがままなずるがしこい心がないでしょうか。そんな罪深い醜い心は、自我が砕かれない限りどうにもなりません。でも大丈夫! ヤコブのように私たちも、自我を砕いていただけるのです。もう一度金言を言ってみましょう。…。イエス様が十字架にかかって死んでくださったとき、私たちの「自我」も一緒に死んでしまいました。だから、「生きているのは、もはや、わたしではない」とあるのです。あなたも自我を砕いていただいて、新しくされたいと思いませんか? み言葉を信じて心から悔い改めましょう。「自分のことばかり考え、自分のがんばりに頼ってきた私を、どうか赦(ゆる)してください。あなたにおすがりします。どうかわたしの内に生きて下さい」と。

### 結び

自我が砕かれたその後は、イエス様が生きて下さいます。「キリストがわたしの内に生きておられる」と信じましょう! これからは、イエス様があなたの内に生きて、ずっと離れずに導いて下さいます。ハレルヤ!

♪主は今生きておられる(リビングブレイズ16)

# 聖書 創世記50・15〜21 テーマ 摂理の神への信仰

## 序論

(高橋頼男)

ヨセフの物語は、創世記三七章から五〇章までに記されています。ヨセフの生涯は波乱万丈、逆転劇の連続ではらはらせられます。それは、さまざまな試練を通して、生きて働かれる神による麗しい摂理の物語であり、ヨセフを通して神の救いのご計画が成就していくという、救済史の偉大なドラマです。

カナン地方に激しい飢饉<sup>きん</sup>が起り、ヤコブは穀物の買い付けのために息子たちにエジプトに行くよう言いつけました。エジプトには、かつて、兄弟たちが憎んで奴隷として売り渡した弟ヨセフが、20年を超える年月を経て、今や宰相となつてエジプト全国を支配していました。

## 一、ヨセフと兄弟たちの再会(15〜21)

ヨセフは、カナンからやってきておそるおそるエジプトの宰相(ヨセフ)の前にひれ伏し食料を求める十人のイスラエル人を見た時、それが自分たちの兄であることがわかりました。一方兄たちは、今をときめくエジプトの宰相が弟ヨセフであろうとは夢にも思いません。

ヨセフはある考えをもって、わざと横柄な荒々しい態度で兄たちをあしらいました。しかし、長い年月を経て兄たちの顔を見、懐かしい故郷の言語を耳にして心が動かされます。二度目に彼らがエジプトを訪れた折、そこに弟ベニヤミンを認める、なつかしさに心がせまり、これ以上こらえられなくなつて急いで部屋に逃れ、声を上げて泣きました。そして、ついにヨセフは、兄弟たちに自分の正体をうちあけるのです。同時に彼は、二〇数年前に自分が兄弟たちの憎しみによって、エジプトに売られたことの背景に、主の深いご計画があつたのだと悟りました。

ヨセフは、同席していたエジプト人たちをみな退席させ、兄弟たちだけになったとき、声を上げて泣きながら、ヘブル語で「わたしはあなたがたの弟ヨセフです。お父さんはお元気ですか」と語りかけました(45・2〜)。

驚いたのは兄たちです。返事をする事もできず、呆然と立ちつくしました。同時に非常な恐れを感じました。あんなにひどい目に合わせた弟ヨセフが、本当にこのエジプトの大臣ならば、自分たちはどんなにひどい仕返しを受けるかわからないと思つたのです。しかし、半信半疑の兄弟たちに近づいたヨセフは言いました。



2月

19日

聖書講解

「わたしはヨセフです。あなたがたがエジプトに売った者です。しかしわたしをここに売ったのを嘆くことも、悔やむこともありません。神は命を救うために、あなたがたよりさきにわたしをつかわされたのです。…それゆえわたしをここにつかわしたのはあなた方ではなく、神です」。

## 二、ヨセフの信仰（19～20）

長い間、異教の地に生活し、しかも世の権力者になっていたヨセフ、生活様式も全くエジプト化し、エジプトの服装、言語、名も「ザフナテ・パネア」（41・45）と呼ばれるようになっていたヨセフですが、やはりヤコブの子でした。アブラハム以来の信仰の血と祝福の流れは彼のうちになお生きていたのです。

外面的にはどんなに異教化していても、彼は神の民イスラエルの心をしっかりと、内に秘めていました。世俗の中に身を置きつつ、「主がヨセフと共におられた」（39・2、21、23）との神の恵みによって、生き生きと神への信頼に生きてきた人の姿を見ます。そして、これは彼と共にいてくださった神の恵みです。

ヨセフは、エジプトの総理大臣としてではなく、ヤコブの子の一人として、アブラハム、イサク、ヤコブの神を信じ告白する者として、そして、共にいてくださる神の恵みをあらゆる困難な中で経験したひとりの証人として立っているのです。

## 三、摂理信仰に生きる幸い（22～26）

ヨセフの身内のものが来たというので、パロをはじめエジプトの人々は大歓迎しました。そしてついに老いた父ヤコブも、エジプトが備えた車に迎えられて、エジプトへと移住することになったのです。（45・21～46・7）ヨセフはヤコブの死を看取り、また自らも満ち足りた死を迎えます。このようないきさつの中に、偉大な神の計り知れない救いのご計画が着々とおし進められているとは、誰が想像することができたでしょうか。

悲しみも苦しみも、誤解も恐れも、困窮も不安も「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さる」（ローマ8・28）とは、なんとという素晴らしい神の恵みでしょう。

どんな時、どのような展開の中にも、主が共におられ、力強いご支配の中にすべてをみ心のまま、万事を益となるよう導いて下さいます。

## 結論

わたしたちは、この神を信じて生きるのです。

## 研究資料

(小平徳行)

この箇所はヨセフ物語の最後の場面の一つである。特に20節は、この物語全体の鍵となる言葉である。また、ヨセフ物語を学ぶ上で、主がヨセフと共におられたこと、ヨセフがキリストのひな型であることも覚えたい。

## テキスト

15 父ヤコブの死によって兄たちは、ヨセフと自分たちとを結び付けていたものがなくなつたと感じ、彼らはヨセフの報復を恐れた。 **ことによると** あくまで可能性として。 **すべての悪に、仕返します** ここでは強調するために「報復する」(〔ヘ〕シユープ) という語を2度続けており、「十分に、確かに、仕返します」という意味が込められている。「すべての悪に」とあわせて、兄たちは、ヨセフの報復が徹底したものであることを想像している。兄たちは、すでに自分たちの罪を悔いており、ヨセフも悟られないようにそれを聞き分けていたが(42・21〜23)、直接ヨセフに対して、悔い改めを言葉に表していなかったために、ヨセフに赦されたという確信を持てなかったのである。

16〜17 兄たちはヨセフのあわれみを得るためにあらゆる努力をした。 **彼らはことづけして** 兄たちは用心深く、直接会う前に人を介して伝言した。 **あなたの父は死ぬ前に命じて言われました** 父が死ぬ前の非常に厳肅な時の命令ということを強調している。これは兄たちの作事事であるという見方もある。なぜならこのような指示をしたことは明記されていないし、かつて兄たちがヨセフにどんな事をしたのかをヤコブは知らなかった可能性があるからである。しかし、ヤコブはヨセフを信用していたにせよ、不安を示す兄弟たちのために、この発言をした可能性は十分ある。 **あなたの兄弟たちはあなたに悪をおこなったが、どうかそのとがと罪をゆるしてやってください** 旧約聖書では悪い行いに関して4つの主要な用語が使われているが、そのうちの3つがここに使われている。「悪」(〔ヘ〕ラー)、「とが」(〔ヘ〕ペシヤ、「背く」という言葉に由来する。罪は神に背き、人に背くことによつてその正体を表す)、「罪」(〔ヘ〕ハッター、「的外れ」の意味で、目標を失い道から外れることである)。このことから兄たちは自らの罪を包括的に様々な角度から捉えて悔い改めていることが分かる。ちなみにもう一つは〔ヘ〕アー

2月

19日

研究資料

ウォーンで、これは「ゆがんでいる」という言葉に由来し、心の思い、言葉、行動がゆがんでいることを意味する。これはユダの悔い改めの言葉（44・16）に使われている。ヨセフはこの言葉を聞いて泣いた。その心は必ずしも明らかではないが、父ヤコブの言葉を聞いたことや兄たちの心情をあわれに思ったことと、兄弟の結びつきを新たに感じたゆえの涙であると思われる。また、こうして人を介して伝えなければならぬほど恐れられていることに対してでもあろう。ヨセフがここまで示してきた善意が、兄たちへの赦しの心から来ていることを理解されていない悲しみも含まれている。

18 兄弟たちもきて、彼の前に伏して ヨセフのかつて見た夢（37章）が再び成就した（42・6、43・26、28）。  
19 わたしが神に代わることができましようか ここでヨセフは神こそが真の裁き主であって、自分にはその權威はないことを告白している。

20 あなたがたは、わたしに対して悪をたくらんだが、神はそれを良きに変わらせて これは、ローマ8・28と共に摂理信仰の典型的な言葉である。内容的には45・4〜8で兄弟たちに話したことに同じ。兄たちは、ヨセフ

の見た夢の実現を阻止しようとして、ヨセフを売り渡した（37・20）。しかし、神はヨセフといつも共におられて（39・2、3、21、23等）、それを良きに変わらせ、民の救いのために用いられたのである。そしてヨセフの見た夢を成就させた。人間の罪さえも、神はご自身の良い目的のために用い、すべてのことを最善に導かれたのである。まさに人間が自らの罪深い意志によって、キリストを十字架につけたが、これは神の永遠のご計画である救いの成就であったこと（使徒2・23）と同様である。この点でヨセフはキリストのひな型であった。この世の悪を超えて、神はすべてを支配され、ご自身のご計画を成し遂げられる。良き（ハトープ）「善」の意味。「あなたは善にして善を行われます」（詩篇119・68）などにも使われている。ローマ8・28の「益」も「善」の意味。神の摂理は、神の善なるご性質によるものであり、神のはかり知れない愛と知恵と力の結晶である。

参考図書 1月29日分と同じ。

2月

19日

## 礼拝メッセージ例

聖書 創世記50・15〜21

タイトル いつもベストだよ！神様のみわざ

暗唱聖句 神はそれを良きに変らせて

創世記50・20

目 標 常に最善をなさる神を信頼して生きる。

## 導入

(和田治)

みんなにはどんな思いがあるかな？楽しかったこと、嬉しかったこと……。でも、中には思い出したくもないような、だけど忘れることができない、ものすごく辛く悲しい思いもあるかもしれないね。もし、そんな辛い出来事を、神様が導いてくださって、良いことに変えてくださったなら……。『そんなこと、神様だつてできっこないよ』つて思いますか？いえいえ！今日は、『最悪〜！』と思われるようなことを、神様はちゃ〜んとお取りはからいくくださつて、最善に導かれることがはつきりわかるお話なんです！

先週までヤコブに注目してきましたよね。今日はその11番目の息子のヨセフのお話ですよ。

## 下がったり上がったりのヨセフの人生

ヨセフはお父さんのヤコブからとっても愛され、幸せに暮らして

ていました。でも、そんなヨセフをねたんだお兄さんたちが、憎しみにかられて、遠い国エジプトに売り飛ばしてしまったのです！こんなひどいことがあっていいのでしょうか！しかも、まじめに働いていたヨセフなのに、無実の罪で牢屋ろうやに入れられてしまいます。まさに『最悪〜！』つて叫びたくなるようなことですよ。ところが、その牢屋にいたことがきっかけで、ヨセフは、エジプトの王様パロの夢を解き明かすことになりました。『王様、やがて大飢饉だいききんが来ます！』神様に示されたヨセフの言葉に、パロはびっくり！『神の霊を持つこのような人がほかにいるだろうか！』と、ヨセフを、王様である自分の次に偉い全国のかさとしたのです。

## お兄さんたちとの再会

『エジプトに行つて食べるものを買つておいで。でないとみんな死んでしまう！』ヤコブに命じられて、ヨセフのお兄さんたちは、食べ物を買いにエジプトにやつて来ました。ヨセフの前にひれ伏す彼らを見て、ヨセフは『兄さんたちだ！』とすぐわかりました。もちろん彼らには、ヨセフだとは分りません。エジプトに彼を売り飛ばしてから二十年以上経っていましたし、まさかエジプトのかさがヨセフだなんて、夢にも思いせんから。

幾度かのやりとりの後、ヨセフは弟のベニヤミンを奴隸として

2月

## 19日 礼拝メッセージ例

エジプトに残し、兄たちは国に帰るようにと命じました。その時、お兄さんの一人ユダがこう言ったのです。「どうか、この子を国の父のもとへと帰らせてやってください。この子が戻らなければ、年老いた父は悲しみのあまり死んでしまいます。私を代りに奴隷にしてください!」。

### 神さまの導きを信じるヨセフ

「あのとき、『ヨセフなんて売ってしまえ!』と言ったユダ兄さんが、お父さんを思って自分を犠牲にしようとしている…。」ヨセフの心はゆさぶられました。「みんな、ここから出てください」。お兄さんたちを残して家来たちはみな、部屋から出されました。「うおおおっ…!」ヨセフは大声を上げて泣き出しました。「兄さん、私はヨセフです!」(ええっ…?)驚きのあまり声も出ないお兄さんたちにヨセフは続いて、こう言いました。「私を売ったことで自分を責めないでください。何もかも、神様のお取りはからいだったのです。大飢饉の中でもみんなの命が救われるように神様が備えてくださったのですよ」。ヨセフはお兄さんたちを心から赦していました。

### 良きに変らせてくださる神様

その後、ヤコブも家族の皆もエジプトに越してきました。「お父さん!」「おお、ヨセフ! 死んだと思っていたお前にまた会え

るなんて!」父ヤコブをヨセフは抱きしめ、いっぱい泣きました…。やがて、年老いたヤコブは死にました。そこでお兄さんたちは心配になって来ました。「何も悪くないヨセフをエジプトに売り飛ばしたりしたんだ。ヨセフは私たちを憎んで仕返しするかもしれない」。そこでヨセフに頼みました。「これはお父さんが死ぬ前になさった命令です。『ヨセフに言いなさい、兄たちを赦してやってください』と。ですからどうか、私たちを赦してください」。

ヨセフはそれを聞いて情けなくなつて泣きました。(そんな作り話までして。私が本当に赦していると信じていることができないのだな)と。「恐れないでください。確かに兄さんたちは私に悪いことをたくらいました。でも、神はそれを良きに変らせて、多くの民の命を救われたのです。一緒に神様に感謝しましょうよ!」ヨセフが言ったように、すべては神様のご計画だったのですね。ハレルヤ!

### 結び

ねっ! はつきり分つたでしょう? 神様は今も、同じように、人間の悪いくらみさえも良きに変えてくださるんです。神様がなさることはいつも『ベスト(最善)』なんです! このお方を信じて生きる人生つて、本当に最高ですね!

♪神さまの声きこえるかい♪ (イン・教会学校さんびか84)

# 聖書 マタイ25・1〜13 テーマ 主の再臨に備える

## 序論

(金井信生)

年度末に向かい、再臨の主の前にやがて人生のしめくりがあることをおぼえましょう。三週にわたって、イエスの教えられた世の終わりに対する備えを学びます。今日は、「十人のおとめ」のたとえを通して、日々心がけるべきことです。

## 一、花婿を待つ

イエスは「場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう」(ヨハネ14・3)、「しかり、わたしはすぐに来る」(黙示録22・20)と約束されました。それは「小羊の婚宴」(黙示録19・9)すなわち、花婿であるキリストが、教会を花嫁として迎えられる日です。

イエスの話す<sup>たと</sup>譬えにも、神の国を宴会に譬え、用意が整ったら客を招く話がいくつもあります。喜びの宴が備えられていること、その時が来たら招きに直ちに応じ

ることを、いつもおぼえていることが大事です。

今日の譬えでは、花嫁に付き添うおとめを通して、キリストを待つ心の備えが教えられています。今はまだ、準備の時であり、忍耐の時です。しかし、やがて訪れるのはすべての労苦から解放され、喜びが満ちる日です。私たちは過去を待つのも、今を待つのもなく、主の言葉に従って約束の日を待つのです。

## 二、待つ者の備え

おとめたちは〈あかり〉を手にして待っています。現代のように、「そろそろ近づいたから」と事前に連絡が来るわけではありません。いつ来られてもいいように、〈あかり〉を常に手にしていなければならないのです。イエスは「あなたがたは世の光である。…あなたがたの光を人々の前に輝かし」(マタイ5・14、16)なさいと教えられました。私たちは霊的な暗黒に閉ざされ、行き悩んでいる世にあつて、真理の光、命の光を輝かせ続けるように導かれている者です。

また、これも現代と違って、〈あかり〉はたいまつであつてもランプであつても、燃料を補わないと、すぐに

2月

26日

聖書講解

消えてしまいます。「油断大敵」という言葉をすぐ思い出すようなたえです（本来の語源は少し違うそうですが）。

私たちの信仰生涯を、いつも輝いたものにするにはどうしたらいいのか、ここには〈油〉を用意していた者と用意していなかったものとに分かれています。

〈油〉は、聖書の中ではしばしば聖霊を象徴しています。旧約時代の王や祭司、預言者は頭に油を注がれて、神の霊に満たされるべき職務に任じられました。

ここでは、「輝き続けなさい」と命じられる主が、輝くための必要を、常に満たし続けてくださっていると受け止めてよいでしょう。主の臨在を忘れて、周囲の波風におびえたり、空しい楽しみに心を奪われていると、すぐに闇に飲み込まれてしまうような私たちです。主からの喜びを、希望を日々いただくよう、賛美と感謝、祈りと御言葉にあふれた歩みに励みましょう。

### 三、目をさましていなさい

〈目をさましていなさい〉とは、おとめたちが居眠りしてしまったことを責めているではありません。イエ

スは、私たちが弱い存在であることをご存知です。ただ、あかりを手に行っている意味を、また輝かせ続ける必要を意識しているかどうかを問うておられます。これは人任せにはできません。一人一人が、キリストの救いを自分のものとし、恵みをおぼえることです。

結婚を二人が決めるのは一つの時点ですが、実際の結婚式に、またその後の生活のための準備はしばらくの期間があります。

キリストの救いも、救われたときから主と共に歩み始め、恵みに満たされて光を放って行くように導かれています。備えのない者への厳粛なさばきは確かにあります。備えているつもりでも、風が吹いたり、油が切れそうになつてあわてることもあるかもしれません。だからこそ、共にいてくださる主にすべてを委ね、日々御言葉に従っていくなら、主が私たちを守り支えてくださいます。

### 結論

うれしいときもかなしいときも、主と共に歩み続けるよう、霊の目を覚まして、主のご再臨に備えましょう。



## 研究資料

(中島啓二)

前章では、信じる者は「忠実な思慮深い僕」(24・45)として、主の来臨を待ち望むべきであることが教えられた。この章では、まずこの「十人のおとめのたとえ」(1〜13)を通して「思慮深き」の面が、続く「タラントのたとえ」(14〜30)を通して「忠実」であることが、さらに詳しく扱われる。そして31〜46節で「最後の審判の光景(羊とやぎのたとえ)」が示されるのである。

## テキスト

**1 花婿** キリストを指すことは明確だろう。**十人のおとめ** 婚礼の一連の行事の間中、花嫁に付き添い世話をする女性たち。教会はキリストの花嫁にたとえられることが多いが、このたとえでは、主の再臨を待ち望む教会(あるいはクリスチャン)を、花嫁ではなく、この付き添いの女性たちにたとえている。**天国は：に似ている** 天国は単なる来世のことだけではない。マタイ福音書の言う天国は、ルカ福音書の神の国(神の支配とも訳すことができる)に相当する。それはキリストの降誕によって既に地上にもたらされ(ただし未完成)、やがて終末の時に完成するものである。再臨までの「教会の時代」

は、その「既に」と「未だ」が混在している状態である。そんな中間の時代を、再臨はいつあるのかと待ちながら過ごすクリスチャンの心構えはどうあるべきか、それをイエスは教えるのである。**あかり** 棒にぼろ布を巻き付けた松明たいまつかもしれない。この種の松明の布は短時間で燃え尽きてしまい、その都度、別の布で包み直し、油を含ませねばならなかった。**花婿を迎えに出て行く** 少し後の時代のものだが、パレスチナの一般的な結婚式の手順が知られている。まず夜の祝宴に向けて、花婿が花嫁を迎えに来る。その花婿を花嫁の付き添いの女性たちが外に迎えに出る(花嫁は家の中にいたまま)。そして新郎新婦と付き添いの女性たちが行列をつくって花婿の父の家まで進んでいき、そこで祝宴が開かれるのである。時代は少し異なるが、このたとえの婚礼もほぼそのような手順であったと考えられる。

**3 思慮の浅い者たちは、あかりは持っていたが、油を用意していなかった** 花婿を待つている間も火をともしておくのか、それとも到着の一声を聞いてから火をつけるのかはわからない。いずれにしても大事なことは、彼女たちは、(時間どおりであろうが遅れようが)花婿が到着したならば、その時から始まる大事な役割に備えて、

2月

26日

研究資料

油を十分に用意しておく必要があったということである。  
**4 思慮深い者たちは…油を用意していた** 万一に備え油を用意していたことが「思慮深い」と呼ばれる理由である。油は聖霊を象徴するものとされるが、ここでもそう捉えてよいだろう（ただし、そこまで意図されていないとする注解者もいる）。

**5 彼らはみな居眠りをして、寝てしまった** 思慮深い者たちも寝てしまったことに注意。「目をさましていなさい」（13）というこのたとえの結論からすると、彼女たちにも落ち度があるようにも思えるが、彼女たちは叱責を受けずに、その後の役割を果たし、祝宴の恵みにあずかっている。

**6 夜中に…呼ぶ声がした** 「思いがけない時に人の子は来る」（24・44）とあるとおりである。

**8 あかりが消えかかっています** 「悪しき者のともしびは消される」（箴言13・9、ヨブ18・5参照）のイメージが背後にあるのかもしれない。

**9 わたしたちとあなたがたとに足りるだけは、多分ないでしょう** 分け合うならば全員の油が不足し、結婚式が台無しになってしまう。主の再臨に備えておくという信仰の姿勢は、他の誰かと貸し借りできるような類のもの

ではないのである。

**10 用意のできていた女たち** 婚宴の部屋に入れたのは「用意ができていた」からであつた。戸がしめられた救われる者と滅びる者とがひとたび定まれば、もはやそれを変えることはできない。

**11 ほかのおとめたち** 花婿の遅れに備えていなかったばかりに、婚宴の部屋から閉め出された彼女たちは、今や「その他」の存在に落ちぶれた。

**12 わたしはあなたがたを知らない** 最後の審判の厳粛さを思い知らされる言葉（7・23参照）。

**13 目をさましていなさい** 前述のように、思慮深い女たちも眠っていたが、それはこの警句と矛盾しない。彼女たちは来たるべき時への備えが十分にできていたゆえ、祝宴に連なることがゆるされたのである。クリスチャンは再臨に備えて、日常生活に支障がでるほど気を張り詰めている必要はない。ただし霊的には目を覚まし続け、そのことによって準備が整っていることに安心し、平安のうちに再臨を待ち望み続けなければならない。

**参考図書** 注解書 D. H. Hagner (Word), D. Hill (New Century Bible), その他 The IVP Bible Background Commentary: NT

2月

26日

## 礼拝メッセージ例

聖書

マタイ25・1～13

タイトル

主の再臨に備える

暗唱聖句

目をさましていなさい。その日その時が、あなたがたにはわからないからである。

目標

霊の目を覚まして、主のご再臨に備えた生き方をする。

### 導入

(水野晶子)

寒い朝、目覚まし時計が鳴っても「もうちよつと」と目覚まし時計をとめて寝てしまい、「学校遅れるよ、起きなさい」と叱られて、しぶしぶ起きて支度をし始めたところが、靴下に穴があいていた、宿題が間に合っていないかったり、あわててとび出したら、雨が降ってきて傘を取りにもどつたら遅刻してしまいました。準備ができていないとんだことになります。

イエス様はみ国に帰られるとき、再びこの地上においてなることを約束されました。それがいつなのかはわかりません。その日に備えることが大切です。どんな準備が必要でしょう。

### 十人の女の人の話

イエス様がまたおいでになる約束は素晴らしい約束です。「わたしは天のお父様のところに行くのです。私のお父様の所には大きな家がたくさんあります。あなたのために、その家を用意に行くのです。そしてその家の用意ができれば、またあなたがたを迎えに来ます」と言われました。イエス様は花婿として来られます。そして、教会が花嫁として迎えられます。イエス様は弟子たちに、この日に備えて、どのように待つべきであるかを譬えでお話しされました。

あるところに十人の若い女の人がありました。結婚式に招かれたので、結婚式にふさわしい一番いい着物を着てウキウキして出かけました。ところが花婿がいつまでたっても来ないのです。暗くなってきました。花婿を迎えるために、油の入ったランプをつけて、待つことにしました。5人の女の人は遅くなってもいいように十分油を持っていました。後の5人の人は油のことなど考えていませんでした。真夜中になりました。みんなとうとう眠ってしまったのです。ところが突然、「花婿がお着きになりました。迎えに出なさい」と呼ぶ声にびっくりして、

2月

26日

礼拝メッセージ例

目をさしました。賢い女の人のランプはあかあかと燃えていました。他の5人の女の人たちのランプは消えそうでした。あわてて油を買いに行きましたが、その間に結婚式は始まり戸がびつたりとしまつて、その5人の女の人の中には入れてもらえませんでした。

### イエス様を待つ備え

結婚式に招かれた女の人とは、イエス様を信じている私たちのことです。私たちはイエス様を待つために、どんな備えが必要でしょう？

- ①「イエス様は私の救い主」と信じる信仰を持ち続けることです。イエス様は私たちを天国に入れてくださるために、十字架にかかり死んでよみがえってくださいました。このイエス様を信じて神様の子どもにしたい、だきました。この信仰が天国行きのパスポートです。
- ②女の人たちはあかりを持っていました。私たちは、イエス様を信じて光の子です。世の光として輝くために、いつも聖霊に満たされ、祈り、み言葉に養われ、賛美し感謝しながらイエス様を待ちましょう。
- ③女の人たちは、花婿が来るのがあまりにも遅くなった

ので、居眠りをしてしまいました。イエス様はいつ来られるのかわかりません。「目をさましていなさい」とのみ言葉を、いつも心に覚えていましょう。悪魔は、遊びやゲーム、いろいろな夢中になるものに心を向けさせ、イエス様のことを忘れるように仕向けてきます。また、罪を犯させて神様から引き離そうと誘惑してきます。だから、目をさまして、いつも共にいてくださる主にすがっていきましょう。

### まとめ

イエス様にお会いするのは楽しみです。イエス様が来られるときまで、いつもイエス様によって救われたことを感謝し、イエス様が愛してくださっていることを覚え、恵みで光を放っていたきましょう。いろんな嵐が来るかもしれませんが。信仰の火が吹き消されそうになるかもしれません。でも大丈夫、主に全部を任せて従っていきましよう。主が守り支えてくださいます。

♪まもなくかなたの♪（新聖歌475）

♪おきて歌おう子どもたちよ♪（プレイワールド32）

# 聖書 マタイ25・14〜30 テーマ タラントを生かす

## 序論

(金井信生)

旅に出た主人とは、主イエスのことです。主人が帰ってきて、僕たちに預けた財産を清算するように、やがてわたしたちは、人生の総決算をしなければなりません。その時に評価される基準は「忠実」であつたかということです。

## 一、「預けられたもの」に忠実か

このたとえでは、三人の僕がそれぞれの能力に応じて、五タラント、二タラント、一タラントを預けられました。この「タラント」は当時のお金の単位ですが、後に「才能・技量」を表す「タレント」という言葉のもとになりました。つまり、人それぞれ、神から与えられた能力や賜物は違うのです。また、生れてくる時代や境遇、人生の長短などもみな異なります。

いずれにしても、私たちが持っているものや用いることのできるものは、すべて神から預かったものであることをまず知らなければなりません。多くても少なくても、

人と比べて違いはあつても、もとは主が一人一人をご覧になって、預けてくださったことには違いありません。決算のとき、この主人は儲けた額で評価するのではなく、預けた物に対して忠実に一生懸命用いていったことをおほめになられるのです。

## 二、「主人の思い」に忠実か

タラントの違いは、不公平ではありません。主人はそれぞれの能力に応じて預けました。それぞれ能力が違うのに同じだけの結果を要求することのほうが不公平です。私たちが神様から与えられている力は、十分に用いることができる分だけ与えられていますから、結果の違いを人と比べることなく、神様が与えてくださった恵みに感謝して忠実に用いていくことが大事です。

五タラントあるいは二タラント預けられた人が、主人の思いに対して忠実であつたことは、「すぐに」という言葉にも現れています。これは増やすために預けられているということを、また主人は増やしてほしいと願っていることを理解して、精一杯努めようとしているからです。

また、主人が帰ってくるまでには「だいぶ時」がたつ

3月

4日

聖書講解

ていました。ほめられた僕たちは、主人が帰るまで忍耐して自分の働きを続けていたことも評価されています。一タラント預けられた僕が厳しいさばきを受けたのは、主人の思いを受け止めなかったからです。

### 三、主人はどんな方か知っているか

一タラント預かった僕は、これを使わないで隠しておき、主人のことを「酷な人」と呼んでいます。この人は主人すなわちイエスのこと、神のことをよくわかっていないようです。

この「タラント」とは今の価値では数千万円あるいは一億円と言っているほどのお金です。しかし主人はこれを「わずかなもの」と言っています。神様は私たちが考えている以上に「気前よく」、夕方遅くから働きに来た者にも一日中働いた者と同じだけ賃金を払ってくださる方（マタイ20・1～16）であり、「あなたのパンを水の上に投げよ」（伝道11・1）とおっしゃられる方です。

何よりも、私たちが罪と死から救うために、惜しまずに独り子を命まで与えてくださった神であり、犠牲となってくださったキリストです。罪に対しては厳しい方ですが、本質的には惜しみなく愛を注がれる方です。

主人のそばにいても、主人の本当の姿を知らないでただ怖がつており、自分の怠慢を正当化しようとする者は、「役に立たない」と言われています。預けられたタラントを、まず用いることが主人の願いでした。直接目に見える儲けがなくても、愛をもって与えていったことは、主に覚えられ、「わたしにしたのである」（25・40）と喜んでくださいます。

主人の願いは、「一緒に喜ぶ」ことです。決して自分だけの満足を求めておられるのではなく、喜びを共にする友を求めておられるのです。自分に与えられた務めを精一杯果たしたとき、私たちの心の中には満足があり、喜びがあります。この満足や喜びは、自分のしたいことだけして、欲しい物を何でも手に入れたときのものとは違います。ただ、人と比べるときに、喜びが失われるのです。

### 結論

私たちのもつすべてのものは、すべて神から与えられたものです。神の期待に応えて用いるなら、やがて主と共に喜ぶことができるのです。

## 研究資料

(中島啓二)

前の箇所で「忠実な思慮深い僕」(24・45)の「思慮深さ」が扱われたのに続き、ここでは「忠実さ」が扱われる。旅で不在の主人(Ⅱ人の子)が戻って来るまでの期間、僕たち(Ⅱ弟子)は、それぞれが果たすべき責任を割り当てられている。信じる者が神の国の宴に招かれるためには、それらに積極的かつ忠実に取り組んでいかねばならない。これは「行いによる救い」ということは決してない。キリストの真の弟子は、その生き方を通して自分の信仰を表していくのである。

## テキスト

**14〜15 ある人が旅に出るとき…** 金持ちが自分の財産の管理と運用を、良く訓練された使用人に任せることは一般的であった。**自分の財産** 直訳は「彼に属するもの」。「天にあるもの、地にあるものも皆あなたのものです」(歴代上29・11)とあるように、すべては神のものであり、人はそれを預かっているのである。**タラント** 1タラントは6千デナリ(1デナリは労働者の一日分の賃金に相当)。英語の「タレント」(天賦の才能、能力の意)の語源である。**能力に応じて** とあることから、ここで

は個人的な意味合いを持つものを指すのであろう。とは言え、単に個々の才能や、目に見える財産と言ったものに限定する必要はない。先述のように、すべては神のものであり、私たちのすべては神から預かっているものである。いずれにせよ、この譬で最も重要なことは、**タラント**が何を指すかよりも、それぞれが神から託されたものを、いかに忠実に管理するかである。

**16〜17 すぐに行って** 託されたものと、ゆだ委ねられた使命に対する忠実さが表れている行動。**それで商売をして、ほかに五タラントをもうけた** 彼がどうやって金を増やしたかは重要なことではない。彼と二人目の僕とが、託されたものを忠実に運用しようとした事実が重要なのである。

**18 行って地を掘り、主人の金を隠しておいた** 大金を守る最も安全な方法の一つであった。

**19 だいぶ時がたってから** 金を運用するのに十分な期間があつたことを示すと共に、主の来臨が弟子たちの予想、期待よりも遅れていたことを示す(24・48、25・5参照)。**彼らと計算をはじめた** 終末の審判の描写(18・23参照)。

**20〜23 ほかに五タラント** 原資を活用して二倍に増や



3月

4日

研究資料

すことは、その時代、一般に期待される成果であった。  
**ご主人様…もうけました** 最初の二人の僕の言葉は金額が違っただけで全く同じである。**良い忠実な僕よ、よくやっ**  
**た…** そして彼ら二人に対して主人が語る言葉も全く同じである。忠実であるか否かは、いくらもうけたかではなく、どのように管理したかという態度、行動によって判断される。皆が同じ賜物を与えられているわけではないが、それぞれが与えられたものに対し、忠実であれば、それで良いのである。**わずかなものに忠実であつたから** 巨額のタラントでさえわずかに映るほど、終末における神の恵みは大きい。**多くのものを管理せよう** 「天国」(1、14)を受けること。**主人と一緒に喜んでくれ** この喜びへの招きは、天国の宴を連想させる。  
**24、25 まかない所から刈り…** 自分の怠慢を正当化する言い訳。主人に対する間違つた評価であるが、主人が成果を期待していたことを彼は知っていた。**恐ろしさ** 誤解によつて、彼は主人に対する愛情や敬意を持たなかっただけでなく、恐怖心さえも抱いていた。**ここにあなたのお金がございます** もうけこそしなかったが、元金は保たれ、何も失っていないという主張。この表現は、ユダヤの商取引において「今より後はこれについて責任を

負いません」という意味を持つそうである。実際には責任を果たしていないのに、あたかも果たしたかのような滑稽な過信と言える。

**26、27 悪い怠惰な僕よ** 彼の問題は、何もしなかったことであつた。主人がもうけを期待しておられた(24)ことを知っていたゆえに、彼の落ち度はさらに大きい。**銀行** 相当の利子を得ることが出来たし、土の中よりもさらに安全であつた。

**28、29 おおよそ、持っている人は与えられて…** ここでの動詞は、未来形の受動態が用いられており、「与える」、「取り上げる」の動作主が神であることを明白に示している。神に忠実であることは、さらなる祝福をもたらす一方で、神に不忠実であることは、それまでに得ていた祝福さえも失うことになるということ(13・12参照)。

**30 外の暗い所に追ひ出すがよい** 暗やみは地獄、永遠の滅びを暗示する。**泣き叫んだり、齒がみをしたりするであろう** 忠実な二人の僕が招き入れられた祝福とは全く逆の現実が、この不忠実な僕には待ち構えていたのである(8・12参照)。

参考図書 2月26日分と同じ。

3月

4日

礼拝メッセージ例

聖書

マタイ25・14〜30

タイトル

神様からお預かりしたもの！

暗唱聖句

良い忠実な僕よ、よくやった。

マタイ25・21

目標

与えられた賜物を活かして、神に仕える者となる。

導入

(松浦みち子)

いよいよ三月ですね。マルモリダンスで有名になったタレントの芦田愛菜ちゃんや鈴木福くん、嵐やAKBなどのタレントさんがテレビなどで活躍していますね。「タレント」ということばはもともと聖書の中のタラントという、お金の単位を表すことばでした。イエス様のたとえ話から、タラントが「神様から預かったもの」という意味になり、「特別な能力、才能、賜物」を指すことばとなったのです。へえー、ほんとにー。もうびっくりだよね。いったいイエス様はどんなお話をなさったのでしょうかね。

預けられた財産(タラント)

ある大金持ちのご主人が旅に出ることになりました。そこで出発する前に、家で仕事をしている雇い人3人を呼ん

で言いました。「わたしはこれから旅にでます。そこで、みんなにわたしの財産を預けることにしました。留守の間をよろしく頼みますよ」。ご主人は3人の雇い人たちにそれぞれ5タラント、2タラント、1タラントを預けました。1タラントは6千デナリです。1デナリは大人1日分の給料として聖書に記されている(マタイ20・2)ので、1年で300デナリもうと計算すると、20年分の給料の額となります。たとえば時給千円で8時間働き、1デナリを八千円とすると、これの6千倍なので約5千万円近くの額となりますね。ご主人はこのような大金を3人の能力に応じて、預けて旅立つて行きました。

預かったタラントを用いる

ご主人が出掛けてから、3人はそれぞれ「このお金どうしようかなあ」と、あれこれ考えました。5タラント預かった人は、「そうだ！これで商売して、ご主人のためにお金を増やしてさし上げよう」と思いました。そして、5タラントを元手に、一生懸命働いてほかに5タラントを儲けました。2タラント預かった人も同様に「ご主人様のために」と一生懸命働き、ほかに2タラントを儲けました。1タラントの人はどうだったのでしょうか。この人は、ご主人の心

3月

4日

礼拝メッセージ例

を知ろうとせず、こう考えました。「ご主人は怖いお方なので、もしお金がなくなったら大変だ！ 誰にも取られないよう土の中に隠しておこう」。そう言って、穴を掘り、預かった1タラントをそのままうめて隠して置きました。

### 報告の時

やがてご主人が旅から帰ってきました。3人は「おかえりなさい」と出迎えてから、それぞれ報告をしました。5タラントを預かった人はご主人の前に出て、「わたしは預かったお金で商売をして、更に5タラント儲けました」と言って、10タラントを差し出しました。同様に、2タラントの人も「わたしも更に2タラント儲けました」と4タラントを差し出しました。ご主人は大変よろこんで「よくやった。あなたがたは、わずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ」と言いました。

最後に1タラント預かった人が来て言いました。「ご主人様、わたしは、預かったお金を無くしたら、きつと怒られると思って、怖くなったので土の中に埋めて置きました。ここに預かった1タラントがあります」。すると、ご主人は怒って「この怠け者！ そのお金を銀行に預けたほうがま

しだった」と言って、そのお金を取り上げ、10タラント持っている者にやりました。それだけではありません。「この役に立たない僕を外の暗い所に追い出すがよい」と追放してしまいました。

### たとえの解き明かし

この主人とは神様であり、財産を預けられた人達とは私たちのことです。私たちが預かった財産とは私たちが持っている全てです。体も、才能も、時間も、持ち物も、神様が私たちに預けて下さったものです。それらを賜物といいます。顔かたちが一人ひとり違うように、神様はそれぞれの能力に応じて賜物を預けて下さっているのです。他人と比べる必要はありません。あなたはあなたらしく生きていけばよいのです。それらを、神様と人のために用いることが期待されているのです。やがて、主の前に出る時「よくやった」と主に喜んでいただけるよう、忠実な者として、歩んでいきましょう。（参照）金子みすゞの詩「鈴と小鳥とそれから私、みんなちがって、みんないい」を朗読する  
とよいでしょう。

♪主よ、ささげます♪（讃美歌21 512）

# 聖書 マタイ25・31〜46 テーマ 最も小さい者のために

## 序論

(金井信生)

人は「一度だけ死ぬことと、死んだ後さばきを受けること」(ヘブル9・27)が定められています。先週はタラントのたとえを通して、神から預けられたものを忠実に用いているかが評価されることを学びました。

今週は、愛のわざを「最も小さい者のひとり」に対して行っているかがさばかれることを教えるたといです。

## 一、栄光の座につく人の子

キリストが再びこの世に来られるとき、すべての人は、その栄光の座の前でさばかれます。それまでは、羊とやぎ、麦と毒麦(マタイ13・24〜30)は入り混じっています。しかし、さばきの日にはそれぞれがはっきりと分けられ、羊あるいは麦は神からほめられ、実りとして迎え入れられます。一方のやぎと毒麦は永遠の滅びへと投げ捨てられるのです。

もちろん、神はひとりも滅びることを望んでおられま

せん。だからこそ、「御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられ…それから最後が来る」(マタイ24・14)のであり、キリストの救いを受けて、すでに滅びから命に移された者には「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」(マルコ16・15)と命じられているのです。

## 二、祝福の子らである羊

キリストは羊に対して「わたしの父に祝福された人たちよ」と呼びかけます。これから祝福を受ける人たちであり、これまでの歩みにおいて神の祝福を感謝し、また分け合っていた者たちだからです。

彼らは、不足を感じている者を補い、弱さの中にいるものを励まし、孤独に沈む者に寄り添いました。それも、報いを求めてしたのではなく、良いサマリヤ人が「気の毒に思い、近寄って」(ルカ10・33〜34)傷ついた旅人の手当てをし、父親が「哀れに思って走り寄り」(ルカ15・20)、放蕩息子(ほうとうし)を迎え入れたように、自発的な愛の行為でした。

愛のわざは、救われるための義務や条件ではありません。私のためにキリストが命を捨ててくださった、その

3月

11日

聖書講解

恵みを心から感謝し、キリストと結ばれた歩みから生まれてくる働きです。

霊の目がキリストにいつも向いていると、肉の目が自然と弱い人にとどまります。霊の目が曇っていると、肉の目も曇ってしまうのです。

良き羊飼いのもとに身を置き、常に養われ導かれている羊であることをおぼえ、「主はわたしの牧者」ですと、告白し続けましょう。

### 三、わたしの兄弟たち

神の願いは、すべての人に対して愛をもって接することです。それと共に、まずキリストの救いにあずかり、同じ恵み、同じ命に生かされているキリスト者たちが、互いに愛し合うことが求められています。

教会は、ただ聖書を学ぶ勉強会や、戒めを行うよう強制される訓練会ではありません。イエスを主と告白する信仰共同体であり、何らの差別も区別も持ち込まないで、互いを受け入れ、赦し、愛し合う愛の共同体です。そうでなければ、この世に存在する意味がありません。「現に見ている兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することはできない」(1ヨハネ4・20)のです。

さばき主は、羊に「御国を受けつぎなさい」とおっしゃられます。彼らが神の国に入れていた、だいたことを喜ぶだけでなく、その生き方を身に着けていたからです。

反対に、永遠の刑罰を受ける(やぎ)とは、神の愛もキリストの赦しも求めず、自分を神とし王とする生き方を変えなかった人たちです。自分の目で評価して価値あるものだけを愛し、見返りを期待できない弱い者たちに目を向けようとしませんでした。「水一杯でも」(マルコ9・41)報いを受けるのに、それさえしないほどに愛に乏しい者、目に見えない世界を知らず、天に宝を積むことを知らない者、その最後は、自分が誰からも顧みられることのない永遠の断絶です。

### 結論

神が愛をもって手を差し伸べ、キリストが寄り添ってくださった私たちです。今度は私たちが、助けを必要とする人々を心に留め、主の愛によって結ばれた交わりに生きるものとなりましょう。

## 研究資料

(中島啓二)

正しい者とそうでない者とを最終的に分離する最後の審判は、人の子が栄光に満ちて来臨されるときに行われる。世界中の全ての人は、イエスの弟子たちと、彼らの伝えた福音をどのように扱ったかに基づいてさばかれる。福音の伝え手であり、また実際にその福音に生きるクリスチャンたちを親切に扱うということは、実際にはイエスをそのように扱うことなのである。ここにイエスと弟子たちとの目を見張る固い絆が見出される。弟子たちもまた、当然全ての人に愛のわざを行うようにと召されているのであるが、この愛の行いの対象は、キリストにある兄弟姉妹から始まって行かねばならないのである(ガラテヤ6・10)。ともすれば、信仰義認と矛盾する行為義認のように受け取られかねないが、決してそうではない。パウロ書簡においてその問題が扱われるのは、異邦人が教会に加わる際の条件としての割礼の要不要という文脈である。それに対しここで問題となっているのは、第一義的には、既に教会の中にいる者たちが再臨を待つ間、互いに為すべき愛の行動である。そしてこの愛のわざは、義認を勝ち取るための「律法によ

る行い」ではなく、キリストへの愛と忠誠が外へとあふれ出たものである。

## テキスト

**31-33 人の子が…栄光の座につくであらう** 栄光の座は「王」(34)の座であらう。彼はさばき主(ただし34節では、父の宣告を伝達する役割であることが示唆されている)として、最後の審判を主導される。すべての国民をその前に集めて クリスチャンだけでなく、全ての人が判決を受けるために招集される(ローマ14・10他参照)。「すべての国民」(ギリバンタ・タ・エスネー)は、大宣教命令における宣教の対象であり(28・19)、その命令の遂行は終末到来の条件とされている(24・14)。羊飼が羊とやぎとを分けるように 羊とやぎを一緒に飼うことはパレスチナでは一般的であった。その際、季節によつては夜間、寒さに強い羊と、弱いやぎとを分ける必要があった。

**34-36 さあ** [ギリ]デューテ(来なさい)の意識。41節で正しくない者たちに告げられる[ギリ]ポリュエスセ(去りなさい)と極めて対照的。御国を受けつぎなさい 彼らは、主を信じたときに既に前味として味わい始めていた神の国の恵みを、ついに完全な形で受ける。食べさせ…飲ませ…宿を貸

3月

11日

研究資料

し…着せ…見舞い…尋ねて 人間の様々な必要を代表するものとして挙げられているのだらう。

37↪40 正しい者たち… 彼らがイエスに対して愛のわざを行った記憶がないことは、それらの行為が、救われるための条件を満たすために為されたのではなく、正しい信仰によつて自然と結ばれた実であったことを示している。あなたがたによく言っておく イエスが非常に重要なことを告げるときによく用いる表現。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとり これが誰を指すのかについて諸説あるが、普遍的に「全ての人」を指すという意見と、「クリスチャン」を指すという意見とに大別される。マタイ福音書では、イエスが「わたしの兄弟たち」と呼ぶのは、一貫して弟子たちのことであることから、第一義的には、クリスチャン共同体の中にある兄弟姉妹を指すと考えるのが自然であろう。もちろん愛のわざは、最も身近なところから始まり、波紋のように外側へと広がっていくものであることは言うまでもない。すなわち、わたしにしたのである キリストは、ご自身にある弟子たちをご自身と同一視なさるほど、両者の間に驚くべき深い絆を見ておられる。41↪46 わたしを離れて 先述のように〔ギ〕ポリュエスセ

(去りなさい) という命令。7・23では「預言し…悪霊を追いつ出し…力あるわざを行った」と主張する者たちに対し、「不法を働く者どもよ、行つてしまえ」と厳しい言葉が投げかけられている。最後に問われるのは「愛なき」力あるわざ(1コリント13・2参照)ではなく、主の弟子たちに対する日常の愛のわざなのである。主よ 『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく(7・21)を思い起こさせる。これらの最も小さい者のひとりにしなかつたのは… 40節と比べて「わたしの兄弟である」が欠けているが、単なる表現上の省略と捉えるべきである。キリストの弟子たちに対して愛の行いをしなかつたと言うことは、広義には彼らの伝える福音に耳を傾けなかつたということも含まれるであろう。

そして彼らは永遠の刑罰を受け、正しい者は永遠の生命に入るであろう 形容詞〔ギ〕アイオーニオン(永遠の)が両方に用いられているが、その焦点は、単なる時間の長さではなく、両者の違いの決定性を示すことに置かれていると言えるよう。

参考図書 2月26日分と同じ。



3月

11日

## 礼拝メッセージ例

善であれ悪であれ、自分の行ったことに応じて、それぞれ報いを受けねばならないからである」(Ⅱコリント5・10)。

「人の子は父の栄光のうちに、御使たちを従えて来るが、その時には、実際のおこないに依じて、それぞれに報いるであろう」(マタイ16・27)。

### 羊とやぎに分ける

イエス様はどのように裁きをなさるのでしょう。それは丁度、羊飼いが羊とやぎをより分けるように二種類の人に分けます。羊とやぎはたいへんよく似た動物なので、同じ群れの中に混じりあっています。毛の色も鳴き声もメーメーとよく似ています。しかし、羊飼いは必要な時には、両方を分け、羊を右に、やぎを左におきます。羊とやぎのいちばん違うのはその性質です。羊は角があっても丸くなっている他の動物を攻撃することはありません。おとなしく素直で従順です。毛を刈られる時でも、暴れたり反抗したりしません。ところが、やぎは、人間につつかかって来るし、どこかへ連れて行こうとしても反抗的で、両足をそろえてつつぱり、ついていこうとしません。むしろ人間が綱をもつてうしろに回るとやっと動き出すような、自立心旺盛なところがあります。聖書に「歩きぶりの堂々たる者が三つあ

### 聖書 タイトル 暗唱聖句 目 標

マタイ25・31〜46  
神に祝福される人とは？  
これらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。  
マタイ25・40  
助けを必要とする人々を心に留め、必要な助けをする者となる。

### 導入

(松浦みち子)

3月11日は、わたしたちにとって忘れられない日ですね。今日で、東日本を襲った大震災、津波、原子力発電所の爆発による放射能汚染から早や一年になります。今なお目に見えない放射能の危険にさらされている人、復興を目指している人、仮設住宅で不自由な暮らしをしている人などを覚え、神様の助けと守りがあるよう祈りましょう。

### イエス様の再臨

イエス様が再びこの地上に来られることを再臨といいます。再臨されたイエス様は王として栄光の座におつくなり、すべての人を集めて裁きをなさると記されています。「わたしたちは皆、キリストのさばきの座の前にあらわれ、

3月

## 11日 礼拝メッセージ例

る」(箴言30・29)として、雄獅子、おんどり、雄やぎがあげられ、群れの先頭を行く雄やぎの威厳を持った歩き振りのことを記しています。そのような性質の違いのため、羊は良い人、やぎは悪い人にたとえられています。

### 二種類の人に分ける

イエス様は羊とやぎのたとえ話をされ、最後の裁きの時には人をより分け、一方を右に、一方を左におくと言われました。どのようにして？イエス様のたとえからヒントを得ましょう。まず、羊の心をもつ人は、自分の弱さや愚かさを認めて、自分は罪人ですと神様の前に出て、羊飼いであるイエス様を信頼して従い、その教えを実行に移してきた人といえます。一方、やぎの心をもつ人は、神様に頼らなくても自分でしっかりやっていきますという人です。いつも自分の考えや思い、計画が中心で、神様に信頼しない人といえます。

### あなたはどちら？

右の人に向かって「祝福された人たちよ。」と呼びかけ「あなたがたは、わたしが空腹の時に食べさせ、かわいていた時飲ませ、旅人であった時宿を貸し、裸であった時着せ、病気の時見舞い、獄にいた時尋ねてくれた」と言いま

した。正しい者たちは驚いて「主よ、いつ、わたしたちはあなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、渴いていたのを見て飲ませましたか。いつあなたの旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。また、いつあなたが病気に獄にいるのを見てあなたの所に参りましたか」と答えました。するとイエス様は「わたしの兄弟である、これらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわちわたしにしたのである」と言われ、左の人に向かって「のろわれた者どもよ。わたしを離れて、滅びの永遠の火に入ってしまったえ！」と言われました。彼らは「いつあなたをお助けしませんでしたか」と尋ねた時、「これらの最も小さい者のひとりになかったのは、わたしになかったのだ」と言われたのです。

あなたはどちらでしょう。もちろん、私たちは直接イエス様に食べさせたり、飲ませたりはできません。しかし、私たちが他の人にする愛のわざは決して無駄にはなりません。また主の前に忘れられません。神様に祝福された人となるよう、愛の業を実行し、実を結ぶ者となりましょう。

♪うるわしきあさも♪(教会学校聖歌69 二節)

## 聖書 マタイ27・11〜26 テーマ 真理に従って生きる

### 序論

(金井信生)

三つのたとえから主の前に立つ備えを教えられてきました。今日は、裁判にかけられるキリストの姿という実際の出来事を通して、真理に従って生きることを学びます。

### 一、真理に立つ沈黙

不当に捕らえられ、訴えられている中でも、イエスの内には愛があふれていました。「(愛は)不義を喜ばないで真理を喜ぶ。そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える」(1コリント13・6〜7)と讃えられる神の愛です。

イエスが訴える者たちに反論せず、総督ピラトに弁明もしないのは、彼らとは全く違う生き方に立っているからです。不当な訴えが通り、裁きを受けることになれば、それは十字架刑です。しかし、死ぬことさえも天の父の許しなしには起きないことを知っています。また、自ら

の死によって、救いの使命が全うされるならば、喜んで命をささげようとする強い決意が、イエスの内にありました。

「真理は、あなたがたに自由を得させる」(ヨハネ8・32)。「ただ、その自由を、肉の働く機会としないで、愛をもって互に仕えなさい」(ガラテヤ5・13)。イエスの歩みは、まさに真理に立ち、命を与える大きな愛をもって全人類に仕えるものでした。

### 二、真理を曲げる言葉

イエスが沈黙を貫く一方、まわりには真理を曲げる言葉が飛び交っています。「ユダヤ人の王と自称していた」とイエスは訴えられますが、事実無根です。「わたしの国はこの世のものではない」(ヨハネ18・36)と答えているように、真理が生きている世界と、真理を持たずにその場しのぎを重ねている世界とは、交わることがありません。真理を持たない人たちは次々と言葉を重ねますが、結局、自分の内には恐れと不安しかないことが明らかにするばかりです。

総督ピラトは、「真理とは何か」(ヨハネ18・38)と尋

3月

18日

聖書講解

ねます。またイエスの無罪を確信して、何とか釈放しようとします。総督の言葉と決断はすべて記録されますから、有罪判決を下せば、偽りを承知の上で言葉を発しななければなりません。妻が伝えてきた不思議な言葉からも、このイエスはただ者ではないと感じています。しかし、最終的にピラトは真理に立つて決断することができませんでした。

ローマ帝国の中にあつて、属国とされていたユダヤを治めるのは難題でした。失敗すれば出世の道は断たれます。しかし、もうまく治めることができれば、いつか皇帝に選ばれることもあるかもしれません。

自己保身と将来への野望をピラトは捨てることができず、しかし自分の手を汚さないために、〈わたしには責任がない〉と、真理から目を背けました。

イエスを訴えた者たちは、明らかな犯罪者であるバラバの釈放を求め、イエスの断罪を要求しました。イエスの教えが間違っているからでも、その行いが法に触れるからでもなく、自分たちの秩序を覆すことが、ただ妬ましく憎らしかつたからです。「子は父の罪を負わない」（エゼキエル18・20）と断言されているのに、〈その血の

責任は、われわれとわれわれの子孫の上にかかってもよい〉と、もうわけがわからなくなるほどに、感情に振り回されるまま、流されてしまいました。

### 三、真理に従って生きるために

メシアの受難と沈黙を、先にイザヤは預言しました（イザヤ53章）。またペテロは、イエスの足跡はわたしたちの踏み従うべき模範であると教えています（1ペテロ2・21〜25）。

どちらも、わたしたちの救いのためのキリストの苦難と沈黙であつたことを伝えます。この救いは地上で全うされ、永遠に至る救いです。救われている私たちは、恵みから漏れないために、そしてキリストの救いがまわりに起こされていくように、この足跡をたどるよう導かれています。

### 結論

不当な訴えや苦しみに悩まされるとき、十字架を仰ぎましょう。敵をも友とし、不利益をも覆うほどに、神の真理は力強く、愛にあふれています。

## 研究資料

(中島啓二)

## テキスト

**11 総督** ピラトは紀元26年頃から36年まで、ローマからユダヤ地方の統治のために派遣されていた。平常はカイザリヤに居住していたが、過越の期間、監視を強めるためにエルサレムに滞在していたのであろう。**あなたがユダヤ人の王であるか** ユダヤの指導者たちは、イエスにローマの統治を脅かす者としての嫌疑がかかるようにと、キリストの意味を意図的に「ユダヤ人の王」と説明したのであろう。**そのとおりである** イエスは肯定の返事をしたが、その王権は、ピラトが考えているようなものではなく、霊的なものであった(ヨハネ18・36参照)。ピラトもまた、イエスの言う王権が、政治的にも社会的にもローマに脅威を与えるものではないことを、すぐに悟るに至った。

**12・14 ひと言もお答えにならなかった** イエスは、祭司長たちの攻撃に対し自己弁護をしなかった。このようなイエスの受難における沈黙は、「ほふり場にひかれて行く小羊のように：口を開かなかつた」(イザヤ53・7)を想起させる。それは失意や敗北を示す沈黙ではなく、

決意に満ちた威厳ある沈黙であった。**総督が非常に不思議に思った**：この沈黙はピラトに大きな驚きを与えた。イエスのまとう雰囲気はそれまで彼が見てきた犯罪者たちとは全く異なっていたのであろう。

**15・18 ゆるしてやる慣例** このような慣習はそれぞれの地方で独自に行われていたようである。**バラバ** 「暴動を起し人殺しをし」(マルコ15・7)たとある。その名をバラバ・イエスと記す写本もある(新共同訳はそれらを採用)。後世の写字生が、暴動を起こした犯罪者の名に救い主と同じ名を(不注意と故意とを問わず)付け足すとは考えにくく、バラバの名がイエスであった可能性は十分にある(イエスはよくある名であった。コロサイ4・11参照)。その場合、バラバとキリストの「二人のイエス」からの二者択一だったことになる。**ねたみのためであることが、ピラトにはよくわかっていた** 民衆へのイエスの影響力の増加に対する大祭司たちのねたみ。切れ者であったピラトは、そういったことも見通していた。

**19 その妻** 伝承ではプロクラ・クラウディアという名で知られている。夢は、マタイ福音書では、神的啓示のみに用いられている(1・20、2・12他)。彼女は夢の

3月

18日

研究資料

中で、イエスが正しい人であることを知り、夫ピラトが罪なき人を断罪するという悪事に関与することのないようにと願った。

**20〜22 群衆を説き伏せた** ユダヤの権力者たちは、ピラトがイエスに同情的であるのを見て、目的達成のために手綱を強めていった。一方で、無力な捕らわれ人であるイエスがイスラエルの希望であるはずがないこと、他方、バラバがいかに愛国的な闘士であるかを力説したのであろう。**バラバの方を** 彼らの説得は成功し、民衆はバラバの解放を求めるだけでなく、**十字架につけよ**とイエスの死、しかも最も恐ろしい死刑の形態である十字架刑を要求した（申命記21・23参照）。

**23 あの人、いつたい、どんな悪事をしたのか** ピラトによる間接的なイエスの無罪の主張。尋問を通してイエスがいかなるローマ法をも犯していないことを彼は確信していた。それは彼の目にはユダヤ民族内での宗教的な内紛に過ぎなかった。

**24 暴動になりそうなのを見て** 任地で暴動が起こることとは、地方総督にとつては経歴に傷がつくことであり、避けねばならないことであつた。**群衆の前で手を洗つて** ピラトは象徴的な行動を通して、イエスの内には死に

至るような悪事は何も見出されないことを宣言した。しかし公正なさばきをするべき総督が、群衆の要求に屈した点において、彼もまた責任を免れることはできない。

**25 その血の責任は、われわれとわれわれの子孫の上にかかつてよい** 「彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」（ルカ23・34）と主は祈られたが、彼らは、まさに自分を見失つて、このような暴言を吐いたのであろう。悲しいことに、この言葉は後世、反ユダヤ主義の論拠として乱用されたが、そのような報復は神の御心ではないし、差別は絶対に許されるものではない。イエスの死を要求したのは、第一義的には当時のユダヤ指導者たちと、あるいはせいぜい彼らに扇動された特定の群衆であり、その他のユダヤ人には直接の責任はない。また神学的には、イエスの死の責任は、全人類が等しく負うべきものである。全ての人が生まれながらにして持つ罪が、イエスを十字架へと追いやったのである。にもかかわらず、イエスはご自身の死に責任ある彼らを、そして私たちを赦された。イエスの血は、人を断罪するものではなく、救いをもたらすものである。

参考図書 2月26日分と同じ。

3月

18日

# 礼拝メッセージ例

聖書

マタイ27・11〜26

タイトル

十字架をめざして。

暗唱聖句

わたしには、この人になんの罪も見  
いだせない。  
ヨハネ18・38

目 標

不利益を被るようであっても、真理  
に従って生きる。

## 導入

(松浦みち子)

皆さんはだれかに疑われたことがありますか? 「うそ、  
ついでにうそでしょ!」と言われたり、壊してないのに  
「壊したでしょ!」、また「カンニングしたんとちがうか!」  
と怒鳴られたり。本当のことをわかってもらえない時は、  
悔しくて、つらくて、悲しいですね。イエス様もそのよう  
な理不尽な経験をされ、私たちが想像できないほど、苦し  
く、悲しいところを通られました。

## 総督ピラトの前で

イエス様が、ゲッセマネの園で祈っている時、弟子のユ  
ダがローマの兵やユダヤ人たちとやってきました。そして  
ユダが「先生いかがですか!」と言って接吻したとき、い  
きなり捕らえられて大祭司のところに連れて行かれました。

それは夜のことでした。夜が明け、今度はローマの総督ピ  
ラトのところに連れて行かれました。ユダヤの指導者たち  
は、イエス様を神を冒瀆する大罪人だとして、十字架につ  
けて死刑とすることを決めていました。しかし、ローマ帝  
国に支配されていたユダヤ人にはかつてに死刑にすること  
は許されていませんでした。そこで、ユダヤの指導者たち  
はローマの役人ピラトのもとにイエス様を連れていき、

「この者は自分を王だと言って人を惑わしています」と訴  
えました。ピラトの前に立たれたイエス様にピラトは尋ね  
ます。「あなたがユダヤ人の王であるのか?」「そのとおり  
です」と答えられました。しかし、ユダヤ人指導者たちが  
でたらめなことを訴えることに対してはひと言も言い返そ  
うとはなさいませんでした。ピラトは驚いて「あんなに次々  
と、あなたに不利なことを訴えているのに、あなたには聞  
こえないのか」と言いましたが、何を言われてもひと言も  
答えられませんでした。

## 十字架につけろ!

ユダヤの指導者たちとイエス様の様子を見ていたピラト  
には、指導者たちがイエス様をねたんで訴えてきたことが  
わかりました。そこでピラトは「わたしには、この人にな



3月

18日

## 礼拝メッセージ例

んの罪も見いだせない」と宣言しました。そして、イエス様を何とか助けられないものかと考えたすえ、次のようなことを言いました。「みんな、よく聞きなさい！ 過ぎ越しの祭りには囚人を一人赦すことになっている。牢屋には人殺しのバラバが入っているが、あのバラバを赦そうか、それとも、このイエスを赦そうか？」ピラトは、みんながイエス様を赦してほしいと言うだろうと期待したのです。ところが「バラバだ！ イエスを十字架につけろ！」と、指導者にそのなかされた群集は叫びました。思惑がはずれたピラトは声を荒げて「あの人がいっただんな悪事をしたというのだ！」と言うと、人々はいっそう激しく「十字架につけろ！ 十字架につけろ！」と叫び続けるのです。ついにピラトは、ユダヤ人が大騒ぎを起こすことを恐れて「もう、わたしは知らない。お前たちの勝手にしろ！」と言いました。正当な裁判をせず、イエス様を死刑にすることを許してしまいました。こうして、ユダヤ人指導者のねたみ、そのなかされた群集の打算、自分の地位の保身を図ったピラト、多くの人々の罪がイエス様を十字架へと追いやったのです。

### 私たちの罪の身代わり

しかし、それらの人々の罪だけでなく、私たち全ての人の罪を背負って、イエス様は黙々と十字架に向かわれたのです。イエス様がクリスマススの日に誕生された目的は何でしょう。十字架にかかってこの世の人々の罪を取り除くためでした。パプテスマのヨハネはイエス様に出会った時、一番にこういいました。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊！」と。その使命感をもって、イエス様は33年間を過ごされたのです。「見よ、わたしは御旨を行うためにまいりました」（ヘブル10・9）。「この御旨に基きた一度イエス・キリストのからだがささげられた」（ヘブル10・10）のです。

私たちの罪のために、黙って、あざけり、ののしり、いっつわりのことばを浴びせられ、唾をかけられ、鞭で打たれ、苦しめられてくださったイエス様。このイエス様のお姿を心に留め、イエス様に倣うものになりましょう。たとえ、不利益を被ることがあっても「この世では、悩みがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」（ヨハネ16・33）と励まして下さっていますから。

♪ 十字架の上の♪（日基こどもさんびか37）

# 聖書 マタイ27・45〜56 テーマ 十字架による救い

## 序論

(金井信生)

受難週の前に、私たちの罪の姿と、キリストの救いがあらわされた十字架を学びます。

## 一、罪がむきだしになるころ

イエスが十字架につけられたとき、地上の全面が暗くなりました。これは父なる神とイエスとの間が断たれたことのしるしです。また、神無き世界の暗さ、罪深さを示しています。

これまでの覚悟を忘れて逃げ去った弟子たち、証拠もないのにイエスに不利な証言を次々と重ねる人たち、イエスの無実を知らながら、十字架刑を許したローマの総督ピラト、皆自分の立場を守ることに精いっぱいでした。正義に目をつぶって、周りに流される方を選びました。

また、イエスを嘲<sup>あざわら</sup>って、つばをかけたり、頬を打ったり、いばらの冠をかぶせた兵士たち、そして十字架につけられたイエスを見て、ののしり続けた人たち、それぞれ自分の勝手な期待を押し付けたり、弱いものを嘲<sup>あざわら</sup>って

自分が何者かであるかのようにふるまう者たちです。

イエスは、この人間の身勝手な振る舞いを「ご覧になり、心を傷つける言葉を聞かれました。そして沈黙を通されました。やがてイエスの口から出たのが、(どうしてわたしをお見捨てになったのですか)」と天の父に叫ぶ言葉でした。エゴイズムの罪のために神に捨てられなければならない人間を代表しての叫びです。

## 二、神に祈るころ

イエスの「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」の叫びは、本来は痛みや悲しみの中で失望し、落胆し、神様に救いを求めている私たちの叫びです。イエスは、私たちの身代りになるために、罪人と同じ立場に身を置き、私たちが神に見捨てられなければならぬところを代わりに見捨てられてくださいました。そして神の義と愛が一つとなった十字架で叫ぶとき、この祈りは神のもとに届きました。

イエスが最後に大声で「父よ。わが霊を御手にゆだねます」と叫び、息を引き取られたとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真二つに避けました。神殿の垂れ幕とは、神殿の至聖所に至る隔ての幕で、選ばれた大祭司だけが

3月

25日

聖書講解

一年に一度入る事が出来る幕です。最も聖なる神の臨在を表わす、至聖所への幕、神の臨在に触れるために血を携えなければ入る事のできない幕です。それが、十字架の上でキリストの血が流されきった時に、人の手ではなく、神様の手によって、上から下に真二つに裂けたのです。主イエスが贖いの使命を完了され、生ける神の臨在の前に罪ある人間が赦されて立つことのできる道が、この時に天より開かれたのです。

### 三、信仰が告白されるころ

十字架上の主イエスは惨めな姿のままです。十字架から降りることも、死から逃れることもありませんでした。天から声も助けもありませんでした。弱さと敗北の頂点としての死をイエスは迎えられました。しかし、百人隊長や、イエスの見張りをしていた人たち、つまり一連の出来事を最後まで見続けた人たちが、(まことに、この人は神の子であった)と告白しました。彼らは、今まで自分たちが考えてきた救いとは違う、本当の救い、神からの救いを感じ、今まで当たり前と思っていた流されてきた自己中心の世界とはまったく違う世界があることを見ただけです。

私たちはイエスのどの姿を見て、信仰を言い表すでしょう。か。イエスの言葉や御業を通して、もちろん神の子救い主の姿を見ることが出来ます。日々の生活の中で、目に見える具体的な祝福を受けることも感謝であり、喜びです。しかし、絶望に捕らわれているときや、愛する者を失うときに、イエスの十字架を通し、他にはない神の救いを得ることが出来ます。

イエスは虐げられ、苦しみの中で何の抵抗もせずただ黙って十字架で殺されました。しかし、主イエスが息を引き取られたその時に、地震が起こり、墓が開きました。人間の希望が閉ざされるところが開かれて、絶望のどん底にも希望の光が大きく差し込んできます。

### 結論

イエスが私の罪の身代わりとなって十字架に死んでくださったことを信じ、感謝して受け入れましょう。神様の救いの御手にいつも守られて、希望のある幸いな生涯に進むことができます。

## 研究資料

(中島啓二)

## テキスト

**45 地上の全面が暗くなって** 暗やみは出エジプトの災厄の一つであり(出エジプト10・22)、終わりの日に起こることとして、預言書に記されている(アモス8・9、イザヤ13・10等)。次節は、この暗黒がイエスと父なる神との断絶の表れであることを暗示している。満月である過ぎ越しの季節に日食は考えられない(日食が起こるのは新月の時のみ)。中東の局地風「カムシン」による砂ぼこりが、太陽を遮ったのかもしれない。

**46 エリ、エリ、レマ、サバクタニ** 詩篇22篇の冒頭部分。この言葉をマタイは、「エリ」のみヘブル語(アラム語では「エロイ」)で、それ以外を当時の日常語であるアラム語で記している。これは単なる詩篇の朗誦ではなく、まさにその時、イエスが経験していたことであった。肉体的激痛、精神的な屈辱もさることながら、ゲツセマネの祈りにおいてイエスが何よりも恐れていた杯(26・39)は、この御父との断絶であったであろう。しかしそれは、贖罪の成就のためには、どうしても飲み干されねばならない杯であったのである。

**47 あれはエリヤを呼んでいるのだ** ヘブル語の「エリ」がエリヤに聞こえたのだろう。当時のユダヤでは聖徒が助けを必要とするとき、エリヤが現れるという言い伝えがあった(11・14参照)。

**48 酔いぶどう酒** ローマ兵が飲用した、ワイン酢を水で薄めた飲料であろう。マルコでは、エリヤが登場するかを見るために、兵が悪意をもつて飲ませようとした印象を受けるが(マルコ15・36)、マタイではそういう印象は受けない。いずれにせよ「彼らは：わたしのかわいた時に酢を飲ませました」(詩篇69・21)という預言の成就である。ちなみに「没薬をまぜたぶどう酒」(マルコ15・23)は苦痛を緩和させるためのもので、別物である(イエスはそれを拒まれた)。

**49 エリヤが彼を救いに来るかどうか、見ていよう** 興味本位もあるだろうが、人々がイエスを、(言い伝えが正しければ)エリヤが助けに来るような義人と認めていたことが示されている。

**50 イエスはもう一度大声で叫んで、ついに息をひきとられた** 口語訳は4福音書すべてでイエスの死の様子を「息をひきとられた」と訳しているが、原語では表現に差異がある。マルコ、ルカは文字通り「息をひきとった」

3月

25日

研究資料

という意味であるが、ヨハネは「ギブネウマ（息、霊の両方を指しうる）を委（ゆだ）ねた」と記す。マタイの場合は、マルコ・ルカとヨハネの間あたりの表現と言えるだろう。

**51〜53 神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた** 至聖所の前に設けられた「第二の幕」（ヘブル9・3参照）。

「裂けた」の動詞は受動態で、動作の主体が神であることを示している。至聖所は年に一度、大祭司ただ一人が、自分と民の罪の贖いのために入ることを許される所であった（ヘブル9・7）。その隔ての幕が裂けたということは、イエスの死によつて、旧約の祭儀は終焉を迎え、新しい時代が始まったことを象徴している。今や、罪のための最上の犠牲がささげられたのであり、「わたしたちはイエスの血によつて、はばかりことなく聖所にはいることができる」（ヘブル10・19〜20）のである。地震マタイだけが、イエスの死の後に地震があったことを記している。眠っている多くの聖徒たちの死体が生き返った…イエスの復活のち、墓から出てきて…多くの人に現れた 出来事の後関係が難解だが、様々なことを考慮すると、ここで言われている地震は実際には、イエスのよ

みがえりの後（28・2と同じ地震）のことかもしれない。聖徒たちの復活は、その時実際にあったのかもしれないが、やがて起こる聖徒のよみがえりの現実を象徴する表現として、ここに記されているのかもしれない。いずれにせよ、この記述がここに置かれていることは、聖徒のよみがえりが、イエスの十字架と復活に直接に依存するものであることを象徴している。イエスが死に、そして復活されたゆえに、彼を信じる者の復活もまた確かにされるのである。

**54 まことに、この人は神の子であった** イエスの神的な性質と無実性、そしてローマ（ならびにユダヤ）の罪深さを認める告白であろう。この告白が、ユダヤ人ではなく異邦人によつてなされたということは皮肉であると共に、救済史的な転換点（異邦人への救い）を指し示すものでもある。

**55〜56 遠くの方から見ている女たち** 最後まで主の苦しみを見届けたのは、女性たちであった。主に対してより大きな忠誠心を表した彼女たちが、数日後、主の復活という至上の喜びを最初に伝えるという光栄にあずかることになる。

参考図書 2月26日分と同じ。

3月

25日

# 礼拝メッセージ例

## 聖書 タイトル 暗唱聖句

マタイ 27・45〜56  
完成した救いの道

わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。

## 目 標

身代わりの十字架の意味を知り、キリストを信じて救いを得る。

## 導入

(松浦みち子)

先週は、何の罪もないイエス様だとわかったのに十字架に引き渡したローマの総督ピラトの話聞きました。ピラトは、群衆の「十字架につけろ!」という激しい叫びの声に負けてしまったのでした。そんな不当な裁判でしたが、イエス様は黙ったまま、何の抵抗もされずに、十字架にかけられました。

## 十字架の上で息を引き取る

イエス様が十字架にかけられて後、昼の十二時になった時、突然、日が陰り、地上の全面が暗くなつて、三時間もの間、暗闇が続きました。いったい何が起こったのだろうと人々は不安になりました。預言者アモスは、この日、こ

の時のことを預言しています。「主なる神は言われる。『その日には、わたしは真昼に太陽を沈ませ、白昼に地を暗くし、あなたがたの祭りを嘆きに変わらせ、あなたがたの歌をことごとく悲しみの歌に変わらせ……その日を、ひとり子を失った喪中のようにし、その終りを苦い日のようにする』」(アモス 27・9〜10)。

十字架上で苦しむひとり子の姿を見るにしのびず、太陽も隠れて全地が暗くなったのです。暗闇が続く中、午後三時ごろ、イエス様は大声で叫んで、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と言われました。それは「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味です。イエス様の苦しみは、十字架に釘で打ち付けられた体の痛み以上に、父なる神が顔をそむけ、完全に捨てられた心の痛みであつたのです。そして最期に、もう一度大声で叫んでついに息を引き取られたのです。

罪の罰とは、神との関係が完全に絶たれることであり、絶望以外の何ものでもありません。聖書の四福音書には、イエス様の十字架の上のことばが七つ記されていますが、今日の「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」ということばだけが、マタイとマルコと二度

3月

25日

## 礼拝メッセージ例

も記されています。イエス様は私たちの身代わりとなって、暗黒の中でその苦しみを、身に引き受けて下さったのです。何という恵み、何という感謝でしょう。

### 不思議なできごと

イエス様が息を引き取られた瞬間、神殿の幕が上から下へと真つ二つに裂けました。また、地震あり、岩が裂け、墓が開いて主を信じて死んだ聖徒たちが生き返りました。これらは、イエス様の死によって罪の贖い<sup>あがな</sup>が完全に成し遂げられたことを意味しています。裂けたエルサレム神殿の幕は至聖所を仕切る幕でした。罪ある人間は神に近づけないことを表していました。しかし、イエス様の死と同時に幕が上から下へと裂けたということは、私たちの罪がゆるされ自由に神様に近づくことができるようになったことの表れですね。

### 百卒長の告白

イエス様の十字架の様子や、その死を見つめていたローマの百人隊長や兵士たちは非常に恐れを感じ、「まことに、この人は神の子であった」と告白しました。十字架を多くの人に取り囲んでいましたが、イエス様の本当のお姿を悟る人はそう多くはいませんでした。あなたはどうか告白し

ますか。「イエス様、私の身代わりに十字架で死んで下さり、罪を赦<sup>ゆる</sup>してくださいありがとうございます。また、いつでも、自由に祈ることができるよう道を開いて下さったことを感謝します」と祈りましょう。

### 例話

北海道旭川の塩狩峠の頂上近くに汽車が来たとき、突然、客車が機関車から離れ、ずるずると後ずさり始めました。そのままでは客車は転覆し、多くの乗客が死んでしまします。その中に長野政雄というクリスチャンがいました。彼はブレーキが利かないとわかると、自分の体を投げ出し、客車の下敷きになって犠牲の死を遂げました。なぜ、そのような勇敢な行動ができたのでしょうか。長野さんは最初キリスト教が大嫌いでした。ある時、吹雪の中で路傍伝道している牧師に出会いました。「みなさん、イエス・キリストは何一つ悪いことをしませんでした、この世の全ての罪を負って十字架で死んで下さったのです。そして永遠の命を与えて下さいました。神は愛です」。キリストを信じた長野さんは、この場におよんで犠牲の死を実践したのです。何と尊い死でしょうか。

♪じゅうじか♪（ふくいん子どもさんびか14）



# 牧羊ひろば



## 東播磨中央教会

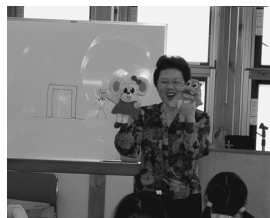
東播磨中央教会教会学校の紹介をいたします。

兵庫県のか古川市にある東播磨中央教会は田んぼの真ん中にあり、どこからでも十字架がよく見える教会です。教会前の道路は小、中学校の通学路になっており、必ず教会の前を通って子どもたちは学校に行きます。登下校時に庭にいる子どもたちが手を振り、日曜日に休んだ子どもたちに声をかけることができます。

朝8時45分、教会学校は教師の祈り会から始まります。聖書を開いて短いメッセージの後、祈りとその日の打ち合わせをします。教師は教会入口で子どもたちを迎えます。子どもたちは教会学校からプレゼントされたおそろいのカバンを持って、車や自転車や徒歩で元気にやってきます。カバンの中には、新約聖書と週報綴りと教会学校生徒手帳が入っています。

教会学校は、子どもたちが10名前後、CS教師はスタッフ、奉仕神学生を含めて5名、子どもと一緒に来られる大人が5名ほどで、礼拝人数は20名を超えます。

### ●礼拝と分級



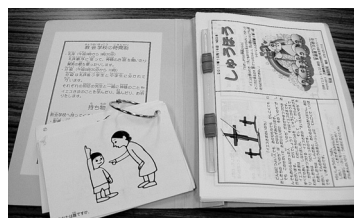
#### お話

礼拝は9時から中学生も、子どもも保護者の方々もみんな一緒に礼拝をします。礼拝では、みんなの人気者チャッピーとカバくんの人形が登場して、子どもたちを聖書のお話に導きます。

#### お話

今年度のテキストは「私たちは神さまのもの」―はじめてのカテキズム―を使い、信仰の継承と育成のために聖書教理の学びをしています。お話は隔週に信子師、その間の週は教師が順番に入ります。教師それぞれが工夫をして、わかりやすく楽しく聖書を伝えていきます。

最後に頌栄、祝福があり30分に終了します。分級は10時まで、小学生、中学生、成人科に分かれます。



#### 週報

小学生の分級は、今日のメッセージに関連した聖書クイズや工作、ゲームなどをします。週報やカテキズムカードを閉じ、みことばカードや出席シールを貼ったりして何かと忙しい分級ですが、最後は祈りの課題を出し合って、祈って終わります。中学生は、部活があつてなかなか来ることができません

が、聖書を開いて自分の教えられたことを語り合い、近況を報告し合い、祈りの課題を聞いてお祈りの時を持ちます。保護者の方は、成人科クラスが開かれているときはそちらで学びます。

#### ●年間行事

##### \*イースター

毎年、カラーセロファンで包んだイースターエッグですが、ひよこの人形を付けてプレゼントした年は子どもたちが大喜びでした。

##### \*子ども大会

5月から6月にします。聖書のお話の他に映画やゲーム

などをします。自分で手品ができるように手品の講習会をした時は、たくさん子どもたちが参加しました。

##### \*子どもの日・花の日

大人と合同礼拝です。礼拝前に、警察署と近くの交番所に感謝のお花を届けに行きます。今年は加古川警察署でパトカーや白バイに乗って、記念撮影をしていたきました。子どもたちは白バイにまたがって大興奮でした。

礼拝では一番前に座り、牧師から一人ずつ祝福のお祈りをしていただきます。今年は、子どもたちがチャイムトーンの演奏と讃美歌を歌いました。最後は教会からプレゼントがあります。

##### \*サマースクール、

##### スプリングスクール

教会学校のメンバーと共に近隣の子どもたちが毎年、大勢参加します。多いときは45名の子どもたちの参加があります。サマースクールは、朝10時30分～夜8時まで。聖書のお話や賛美の時、先生たちの劇、工作、ゲーム、手品、外遊



サマースクール

び、夜のお楽しみ会と、プログラムは盛りだくさんです。工作は毎年時間をかけて頑張って作ります。この工作を夏休みの宿題で学校に提出する人も多いとのこと。夕食が終わると教会の庭でお楽しみ会です。ヨーヨー釣り、スパーボールすくい、コイン落とし、ゲームなど。スイカを食べて、ジュースを飲んで、最後はみんなで花火をして、楽しく一日を過ごします。

保護者の方も、工作や食事の準備を一緒にして下さり、迎えに来た保護者の方も花火と一緒にして、楽しい時を過ごします。毎年、ご近所の方々への良き証詞の時となっています。今年の参加者は、大人を合わせると50名以上になりました。

### \*クリスマス会

第一部は礼拝、二部はお楽しみ会、三部はお茶会とプレゼントの時となっています。降誕劇は隔年にします。婦人の方々が手作りしてくださった衣装を身に着け、練習不足にもかかわらず、本番は堂々と演じる子どもたちです。毎年、



CS クリスマス

教師だけがハラハラして見守っています。前年は「ふしぎな鐘」の劇をしました。プレゼントをもらって、最後は教師の手づくりケーキとお茶で、子どもたちの劇を見に来てくださった保護者の方々も一緒に、楽しい交わりの時を持ちます。

### \*卒業祝、年間表彰式、入学祝、進級式

一年間の努力に対して素敵なプレゼントを準備します。また、卒業や入学祝いのプレゼントもあります。この日は、みんな両手にいっぱいプレゼントを抱えてうれしそうに帰っていきます。

私たちの教会学校では、以前は信徒の子女がほとんどでした。地域の行事や、スポーツ少年団、クラブ、習い事などで、近隣の子供たちが来れません。また、サマースクールや子ども会には参加しても、なかなか毎週の教会学校にまでつながりません。でも、繰り返し伝道することによって、今では近隣から来る子どもたちも増えて、同比率になりました。今年も祈りつつ、信徒の子女の育成と共に、近隣の子どもたちへの伝道に励んでいきたいと願っています。

(藤森信子)

# 牧羊ひろば



## 浜松真愛教会

教会学校の礼拝から大人の礼拝への移行も自然に違和感なく出来ることにより、始めました。

### ●親子礼拝

礼拝は十時半から始まり、黙祷・招きの言葉・さんび・主

浜松真愛教会の教会学校は、二〇一〇年二月より親子礼拝という形で行っています。それまでは、九時四十分から朝の教会学校の礼拝が行われていましたが、未信者の家庭の子どもは来ていませんでした。教会員の子どもたち一く三名の出席でしたが、様々な事情により、その子どもたちも来ることが出来ないことがありました。教会の祈りの課題である信仰継承、家族伝道を祈る中で、二〇〇九年の『牧羊者』に、教師養成講座「神さまの子どもを育てるために」が掲載されました。子ども大人も一緒に礼拝をささげることが、何よりも聖書的事であること、教会全体で信仰継承の働きを担うべきこと、

### ●分級

昨年度までは、教会学校に来ていた子どもたちが皆幼稚園であったため、礼拝の始まる前に幼稚園のワークをしていましたが、小学科に一人が進級したため、礼拝後にも一く二年生用のワークをしています。この時に、お母さんも子どもと一緒に同じワークをしています。そのことによって親と子どもが共に、魂の養いのためのとても良い時を持つことが出来ています。

### ●親子礼拝を始めて良かったこと

親子礼拝を始める以前は、教会学校の礼拝が終った後の大



分級

人の礼拝の時に、子どもたちは遊んでいるのがあたりまえでした。しかし、今は大人も子どもたちの親の意識が変わって、子どもたちも一緒に神様を賛美し、祈りをささげ、礼拝することがとても大切なこととして、それがあたりまえとなりました。また、共に礼拝をささげている大人から見ても、子どもたちは、神様を礼拝する尊い一人の魂となりました。二歳の子どもは、字は読めなくても、周りの大人の真似をして賛美の本を広げて持ち、大人と同じように立って賛美しようとしています。また頌栄の時は、しっかりと口をあけて賛美しているようです。小学一年生の子どもは、主の祈りと使徒信条は、子ども週報を見ながら、言おうとしています。そのことが幼い時から積み重ねられていくことによって、みことばが蓄えられ、神様の子どもが育てられていくでしょう。

子ども向けのお話は、ただ単に、子どもの魂の養いだけではなく、大人にも解りやすく、心に響くものもあります。大人の魂の養いや、求道者や初めて礼拝に来られる方々のためにも、親子礼拝を始めたことはとても良かったと思っています。

#### ●行事など

教会で子どもたちが楽しみにしている行事の一つに、サマースクールがあります。これは、子どもクリスマスよりも楽しいかもしれません。八月下旬の火曜日の午後から教会に来て、



サマースクールでプール遊び

していました。花火が終ると記念写真を撮って、午後八時には家に帰ります。

暑くなつて夏が近づいてくると、「プールしたね。また、しようね。」とよく言っています。

今年は、八月の初めに、日帰りでしたが、東海子どもキャンプに、教会に来ている二人の子どもとその両親が初めて参加することが出来ました。二人とも他の教会のお友だちと仲



サマースクール参加者  
良く遊び、小学一年生の子どもは、包丁を使って野菜を切ったりしてお手伝いをしてくれました。また、キャンプファイヤーなどで、二回も聖書のお話を聞くことが出来て感謝

しました。子どもたちが楽しく生き生きと過ごしているのを見ながら、来年の東海子どもキャンプには、日帰りではなく、一泊して最後まで参加できるように祈っていきたいです。

浜松真愛教会は、開拓十五年目の教会で、礼拝人数も少なく、十七帖のLDKが礼拝堂となり、他に子どもたちが礼拝中に過ごす部屋はなく、子どもたちもそこにいます。しかし、そのことでスムーズに親子礼拝が始められ、受け入れられていくことが出来たのではないかと神様に感謝しています。次世代の子どもたちにしつかりと信仰のバトンを渡していくことを祈りながら、これからも、この奉仕をさせて頂きます。「努めてこれをあなたの子らに教え、・・・これについて語らなければならない」(申命記6・7)。(今田雅子)

## 「おわりに」

今回も『牧羊者』二〇一一年度第IV巻をお届けできまことを感謝します。執筆者の方々には、貴重な時間を割いて執筆していただき、心から感謝いたします。今回は、特集として、5月26日〜30日に開催された韓国金山市にある水宮路教会での研修の中から、教会学校に関し、て参加された先生方に証を書いていただきました。また、「牧羊ひろば」では、東播磨中央教会と浜松真愛教会の教会学校を紹介していただきました。今号の執筆者、奉仕者を紹介いたします。

聖書講解	福井文彦師	高橋頼男師	金井信生師
研究資料	山田和幸師		
メッセージ例	宮澤清志師	中島啓一師	小平德行師
	飯田勝彦師	和田治師	水野晶子師
ワーク	松浦みち子師		
(A)	吉田美徳師	鎌野幸師	
(B)	野勢かほる師	竹崎光則師	
(C)	上代美雪師	小菅央子師	
(D)	石田恭子師	田中裕明師	
中高科へのヒント	小野淳子師	後藤健一師	
子ども聖書日課	丹羽遥姉	土屋直子師	
フラッシュカード	丹羽遥姉		
イラスト	楠淳子師	長尾明美師	
ワーク打ち込み	長田栄一師	加藤清師	山田和幸師
校正	長尾秀紀師	長尾明美師	

また、陰で労してくださった各師と兄弟姉妹、ワーク印刷と発送の教団事務所の兄姉、印刷の松木共榮印刷、菱三印刷に心から感謝いたします。(長尾秀紀)

## 聖書教育教案誌 牧羊者

二〇一一年度 IV 巻

二〇一二年一月一日発行

発行所 日本イエス・キリスト教団  
企画監修 日本イエス・キリスト教団教会学校局  
神戸市兵庫区塚本通三―三―一九

電話 〇七〇 五七五―五五二  
FAX 〇七〇 五七五―六六一

印刷所 菱三印刷株式会社  
電話 〇七〇 五七六―三九六一

\* 日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み